

塩竈市杉村惇美術館

活動記録 2014－2024

Shiogama Sugimura Jun Museum of Art
Report from 2014 to 2024

目次

はじめに	・・・・・・・・	1
I. 施設概要	・・・・・・・・	2
-1. 設置の目的等		
-2. 施設概要		
-3. 利用状況一覧		
II. 事業概要		
-1. 活動方針	・・・・・・・・	4
-2. 主な事業内容	・・・・・・・・	5
-3. ①杉村惇作品の保存・展示・調査研究	・・・	6
②教育普及	・・・・・・・・	9
③市民協働	・・・・・・・・	19
④文化発信拠点形成	・・・・・・・・	26
おわりに		

はじめに

塩竈市杉村惇美術館は、2014年11月の開館以来、これまで塩竈ゆかりの洋画家・杉村惇画伯の作品をはじめ、有形文化財指定の建物など貴重な文化資源を活かしながら、地域の文化振興を図るため、様々な取り組みを行ってまいりました。

特に杉村惇画伯の作品の常設展をはじめ、様々なテーマを設けての特別企画展を開催致しました。また、子どもや地域住民向けのワークショップ、音楽イベントなどのプログラムを実施するとともに、これから活躍が期待される若手アーティストに対しては、展覧会やトーク、ワークショップ等の表現の場を設け、様々な支援を実施してまいりました。さらに、長年親しまれてきた公民館活動の積み重ねを大切にしながら、「まちの記憶」をテーマに、塩竈のまちや市民を相互につなげる企画を展開し、地域文化を実感できる場づくりを行ってまいりました。

このように、暮らしの中にある身近な美術館として、活力ある地域づくりに貢献したことが高く評価され、「一般財団法人地域創造」より、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する「令和元年度地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞することができました。

開館10年目を迎え、さらにこれからの20年に向かって、これまで積み重ねてきた経験を生かしながら、より一層効率的、安定的な運営に務めながら、市民・地域に愛される美術館としての価値と可能性をさらに高めていく取り組みを行ってまいります。



1. 塩竈市杉村惇美術館の概要

1. 設置目的など

2014年度、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民文化の増進を目的として、当時の塩竈市公民館本町分室（昭和25年竣工）の一部を美術館施設として整備し、博物館法に基づく美術館として登録しました。市民の芸術文化への関心が向上するよう、本市に縁のある著名な芸術家である洋画家「杉村惇」の名を施設名称に用いており、歴史的価値及び歴史的建造物としての価値も高いことから、2013年度に、塩竈市有形文化財に指定されました。平成28年東北建築学会賞。

杉村惇と塩竈の関わり

西暦	年号	
1946	昭和21年	杉村惇が塩竈市（港町、旭町）に転居。1965年まで居住。塩竈の風景や新鮮な魚を描く。
1947	昭和22年	塩竈の第1回文化講座（洋画）講師に就任。第1回塩竈市美術展審査員になる。
1950	昭和25年	河北美術展委員になる。この頃、塩竈の帆手祭やみなと祭のポスターを描く。
2001	平成13年	8月13日肺炎のため永眠（満93歳11ヵ月）。塩竈と杉村惇作品展～市制施行60周年記念～（塩竈一ノ蔵酒造ギャラリー）。杉村家より油彩画などを塩竈市に寄贈
2002	平成14年	塩竈市受贈作品展「杉村惇の世界」（ふれあいエスパ塩竈）
2003	平成15年	杉村惇作品展 - 存在と空間の伝説 - （塩竈・旧亀井邸）
2004	平成16年	杉村惇とデッサン展～ふれあいエスパ開館5周年記念～（ふれあいエスパ塩竈）
2007	平成19年	杉村惇・生誕百年記念展（ふれあいエスパ塩竈）
2008	平成20年	アトリエ再現 - 創造の原点 - （塩竈・旧亀井邸）
2010	平成22年	杉村惇絵画展（ふれあいエスパ塩竈）
2014	平成26年	塩竈市杉村惇美術館 開館

2. 施設概要

- (1) 所在地 塩竈市本町8番1号
- (2) 敷地面積 2,662.09 m²
- (3) 延床面積 1,404.95 m²（内美術館面積：886.08 m²）

床面積				
階	面積 (m ²)	室名	施設区分	面積 (m ²)
1階	996.60	大講堂	美術館	422.33
		談話室	美術館	22.91
		講習室1～3	公民館	178.86
		倉庫（講習室1隣）	美術館	32.49
		日本間	公民館	55.83
		和室1、2	共用部	23.27
		事務室	共用部	23.19
		その他	共用部	237.72
		2階	408.35	常設展示室
アトリエ再現コーナー	美術館			13.25
企画展示室1	美術館			54.65
企画展示室2	美術館			79.31
サロン	美術館			33.12
その他	美術館			69.02
敷地		中庭・駐車場等	共用部	

- (4) 構造 大講堂：木骨編版構造
大講堂以外：鉄筋コンクリート造及び木造
- (5) 竣工 管理棟：昭和25年12月5日
大講堂：昭和32年7月5日
- (6) 開館時間 午前10時～午後5時
但し、大講堂については午前9時～午後9時
- (7) 休館日 月曜日（大講堂を除く）及び年末年始

3. 管理運営体制

組織機構

塩竈市 教育委員会

[指定管理] 仙台湾燻蒸株式会社 文化事業部

館長 1 名 統括 1 名 学芸員 3 名 施設管理 1 名 他スタッフ 2 名

清掃作業	日常清掃（毎日）・定期清掃業者委託（年 2 回）
受付業務	夜間・美術館休館日の受付業務（毎日）
警備業務	警備システムによる機械警備（毎日）
エレベーター保守点検	エレベーターの安全管理（毎月）
消防用設備保守点検	消火器・火災警報機の安全管理（年 2 回）
自家用電気工作物保守点検	電気系統の安全管理（年 2 回）
機械保守点検	空調機等の安全管理（年 2 回）

4. 利用状況一覧（開館以降総合計 / 2014～2023 年）

※2019 年 3 月 閉館 ※2020 年 4 月 閉館、5 月一部閉館

美術館入場者総数合計（2014～2023 年）

(人)

年度		展示室			市民 ギャラリー	大講堂 利用者数	講習室 / サロン 談話室利用者数	美術館全体 入場者数
		有料	無料	合計				
2014/11～3	平成 26 年	1,967	978	2,945	—	—	—	2,945
2015	平成 27 年	5,284	2,545	7,829	3,467	5,653	—	16,913
2016	平成 28 年	4,352	1,221	5,573	5,486	8,287	—	19,346
2017	平成 29 年	4,502	1,942	6,444	6,434	9,446	—	22,324
2018	平成 30 年	3,910	2,073	5,983	4,315	10,706	5,984	26,988
2019	令和元年	3,324	1,778	5,102	3,595	10,660	5,243	24,600
2020	令和 2 年	1,783	759	2,542	3,510	2,734	8,296	17,082
2021	令和 3 年	2,451	1,446	3,897	4,149	5,930	8,090	22,066
2022	令和 4 年	2,282	1,443	3,725	3,126	6,535	9,294	22,680
2023	令和 5 年	2,924	1,647	4,571	3,660	6,985	8,907	24,123
合計		32,779	15,832	48,611	37,742	66,936	45,814	190,067

※2018 年より講習室・サロン・談話室の利用者数を算出

※2019 年 3 月休館

※2020 年 4 月休館、5 月一部休館

公民館入場者総数合計（2014～2023 年）

(人)

年度		開館日数	利用者数		
			有料団体	減免団体	合計
2014/11～3	平成 26 年		3,239	—	3,239
2015	平成 27 年	357 日	12,384	8,286	20,670
2016	平成 28 年	357 日	14,816	8,322	22,508
2017	平成 29 年	357 日	17,312	8,968	26,280
2018	平成 30 年	357 日	16,856	7,478	24,334
2019	令和元年	326 日	17,762	8,685	26,447
2020	令和 2 年	307 日	7,552	6,077	13,629
2021	令和 3 年	356 日	8,758	7,575	16,333
2022	令和 4 年	357 日	10,378	6,681	17,059
2023	令和 5 年	357 日	10,726	7,805	18,531
合計			119,783	69,877	189,030

※2019 年 3 月休館

※2020 年 4 月休館、5 月一部休館

II. 事業概要

1. 活動方針

次の4つの活動方針を基本としながら、市民の意識や社会的なニーズの変化を反映しつつ発展させてきました。

①杉村惇作品の保存・展示・調査研究

(調査研究)

②感性やアイデアを発信し、文化づくりを担う創造的な「人」づくり

(教育普及)

③塩竈文化の再発掘、新たな価値創造を行う「場」づくり

(市民協働)

④塩竈の誇る有形・無形の文化的資源を集積し、発信する「文化発信拠点」づくり

(文化発信拠点形成)

塩竈市杉村惇美術館は「美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民文化の発展に寄与すること」、公民館本町分室は「实际生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること」を目的とし、塩竈市が設置しています。

弊社が、指定管理第1期当初からの活動方針と掲げる4つの柱、「①杉村惇作品の保存・展示・調査研究」「②塩竈文化の再発掘、新たな価値創造を行う“場”づくり」「③感性やアイデアを発信し、文化づくりを担う創造的な“人”づくり」「④塩竈の誇る有形・無形の文化的資源を集積し発信する“文化発信拠点”づくり」は、様々な事業展開を通して一定の成果を挙げてきたと自負していますが、さらに、本市が取り組む「豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実」「芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成」を共に目指すべく、当館の事業の一層の充実化を図りながら、市民文化への発展に寄与していきたいと考えています。

本美術館の建築的価値や可能性を最大限に引き出すことを念頭に、親しみやすい市民利用の場として展開するほか、企画展の開催、子どもや地域住民向けの参加型体験イベント、音楽イベントなど記憶に残る多彩なプログラムを実施し、本施設での新たな体験を通して豊かな感性と創造力を育てていきます。

感性や知的好奇心を刺激する体験や、個性や特性に光をあてた活躍の場の提供、多様な価値観を生み出す芸術交流などの芸術文化体験を提供しつづけることで、本市特有の文化的風土や市民の文化的体験を豊かにしていきます。また、この地域のアイデンティティや新しい価値観、新たな才能を国内外へ発信する文化発信地として役割を担うことを目指しています。



2. 主な事業内容

①杉村惇作品の保存・展示・調査研究

- 常設展の開催（通年）
- 杉村惇の作品と業績を受け継ぐ企画展の開催
- 塩竈市美術展杉村惇賞受賞者展の開催
- 市民等への情報発信及び普及・啓発活動

②教育普及

- 本市ゆかりの作家及び作品を中心に多様な芸術分野の作家支援
若手アーティスト支援プログラム Voyage
- 文化芸術に関する講座やワークショップ等の開催
こども探偵事務所／定期講座プラクティスシリーズ
flower art museum / サタデーナイトスタディ
アーカイブス展 PROGRAMS
- 学校教育と連携したプログラムの開催
市内小学5年生美術鑑賞プログラム／小中学校アートプロジェクト
こどもと伝える海とみなとまちの風景展／職場体験学習
- 文化芸術に関する市民等への情報発信及び普及・啓発活動
市民ギャラリー／宮城野高等学校出前型講座及び体験学習
塩竈市立第一中学校総合学習講座「うしおの教室」作品展示
- 美術館ボランティア活動「JUNBI サポーター」

③市民協働

- 市民主体の参加型プログラムの実施
「まちと記憶と映画館」「まちのきおくを あつめる、かたる」
- 社会的包摂事業の実施
チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま
“こちよい”の実践プログラム「発散のじかん / 対話のじかん」
- 中心市街地のにぎわい創出事業の実施
暮らしの市 / ART or TREAT 仮装で菓子めぐり
フライデーナイトミュージアム
- 市内連携プロジェクトの実施
第9回全国醤油サミット in 塩竈「醤油の澱で大きな木を描こう」
塩釜水産物仲卸市場壁画アート制作
- 中庭植栽活動
柘榴植樹／たねをまこう

④文化発信拠点形成

- 歴史的建造物を活用した歴史・文化ゾーンの形成
歴史的建造物探訪「勝画楼の記憶から」
- ランドマーク形成事業
- 他施設・専門機関との連携
宮城県美術館／カメイ美術館
せんだいメディアテーク等県内の文化施設との連携
大原美術館（倉敷市）との事業協力の推進
- ウォークインプログラムの実施
- 喫茶「談話室」の運営



①杉村惇作品の保存・展示・調査研究

○常設展示

塩竈ゆかりの洋画家・杉村惇画伯は、戦後塩竈に居を構え、市場に水揚げされた鮮魚や風情のある港町の風景に魅せられ、数多くの作品を残しています。常設展示室では、「静物学者」と敬愛された、杉村の世界に直に触れることができます。静物画を始め、第一回の東北美術展（河北美術展）で河北賞を受賞した「婦人像」の他、杉村画伯が描いたランプやマリオネットなどのモチーフを展示しています。



塩竈市所蔵作品 油彩画 39 点／スケッチ 6 点／ポスター（複製）11 点

《馬放島より》	1950 年（昭和 25）	F8 (H380×W455mm)	油彩	
《魚》	1963 年（昭和 38）	F6 (H318×W410mm)	油彩	
《鱈》	1954 年（昭和 29）	F50 (H910×W1,167mm)	油彩	第 40 回光風会展出陳
《黒い網》	1959 年（昭和 34）	F80 (H1,455×W1,120mm)	油彩	改第 2 回日展出陳
《壊れた古いラッパ》	1978 年（昭和 53）	F50 (H910 × W1,167mm)	油彩	日展洋画評議員会員展出陳
《錆びた西洋鋸》	1979 年（昭和 54）	F80 (H1,120 × W1,455mm)	油彩	夏季日洋展出陳
《野々島 一柳の浜より外洋を望む一》	1950 年（昭和 25）	P15 (H500 × W652mm)	油彩	
《白い笠のランプ》	1990 年（平成 2）	P100 (H1,120 × W1,620mm)	油彩	第 22 回日展出陳
《黄色い地球儀》	1979 年（昭和 54）	F100 (H1,620 × W1,300mm)	油彩	第 11 回日展出陳
《ランプの静物》	1964 年（昭和 39）	F80 (H1,455 × W1,120mm)	油彩	第 7 回日展出陳
《メキシコの鳥》	1969 年（昭和 44）	F80 (H1,120 × W1,455mm)	油彩	改組第 1 回日展出陳
《三角時計のある静物》	1963 年（昭和 38）	F80 (H1,120 × W1,455mm)	油彩	第 6 回日展出陳
《二つの舵輪》	1955 年（昭和 30）	F100 (H1,620 × W1,300mm)	油彩	第 11 回日展出陳
《テラコッタのある机》	1974 年（昭和 49）	F80 (H1,120 × W1,455mm)	油彩	第 6 回日展出陳
《焼いた魚》	1962 年（昭和 37）	F80 (H1,120 × W1,455mm)	油彩	第 48 回光風会展出陳
《白い机の静物》	1964 年（昭和 39）	F80 (H1,455 × W1,120mm)	油彩	第 50 回光風会展出陳
《マリオネット》	1958 年（昭和 33）	F80 (H1,455 × W1,120mm)	油彩	第 44 回光風会展出陳
《婦人像》	1933 年（昭和 8）	P80 (H1,455 × W970mm)	油彩	第 1 回東北美術展出陳
《壊れた管楽器》	1979 年（昭和 54）	F50 (H910 × W1,167mm)	油彩	第 3 回日洋展出陳
《横たわる人形》	1981 年（昭和 56）	F50 (H910 × W1,167mm)	油彩	第 5 回日洋展出陳
《塩竈港にて 一捕鯨船一》	1947 年（昭和 22）	F4 (H242 × W333mm)	油彩	
《塩竈港にて》	1947 年（昭和 22）	F6 (H318 × W410mm)	油彩	
《塩竈市役所旧庁舎》	1959 年（昭和 34）	P12 (H455 × W606mm)	油彩	※完成 2001 年（平成 13）

※2024 年 10 月に一部展示替えを行いました。



2018 年度においては宮城県美術館の協力を得て同館所蔵の杉村作品《裏町の鳩》及び《古き雛》のレプリカを、塩竈市所蔵のスケッチ画と杉村豊名誉館長による解説文を付して資料室に展示しています。

○杉村惇特別企画展

2018年度から2023年度において、名誉館長の指導のもと展示作品の選定及び展示構成の検討などを行い、名誉館長監修による特別企画展「杉村惇作品展 存在と空間の伝説」韻律シリーズを開催しています。これまで仙台市所蔵作品と塩竈市所蔵作品、カメイ美術館所蔵作品を中心に構成し、色彩、構成、形態、質感、量感等の技法により深みや重み、気迫を醸し出す作品群を展示しています。また作品の理解を深めるためギャラリートークを実施しました。



特別企画展「存在と空間の伝説」韻律シリーズ

存在と空間の伝説～韻律シリーズ～は、名誉館長監修のもと、杉村惇画伯が追求した静物画における「存在と空間」の主題を軸に、仙台市所蔵作品を構成したシリーズ企画展です。

年度	タイトル	展示作品
2018 平成30年度	「海の韻律」	《鯨》(1947年頃)《魚のある卓》(1951年)《長皿の魚》(1962年)《海のランプ》(1965年)《ランプと時計》(1965年)《青いランプ》(1969年)《煤けたランプと人形》(1970年)《秋卓》(1982年)《蛸とかれい》(1954年)《舵輪》(1957年)《厨卓》(1957年)《魚のある構図》(1954年)《廃棄された舵輪》(1956年)他
2019 令和元年度	「画室の韻律」	《画室の卓》(1953年)《石膏とランプとモデル人形》(1960年頃)《人形のある机》(1966年)《ブロンズの首》(1967年)《閑春》(1971年)《地球儀のある静物》(1975年)《サザンクロス》(1977年)《赤いルパンカ》(1984年)《壊れた時計》(1955年)《馬と枯れ向日葵》(1955年)《人形と青いコンポート》(1978年)他
2020 令和2年	「静寂の韻律」	《赤いランプと古風なミシン》(1966年)《暮春》(1976年)《静かな部屋》(1970年)《古風な手風琴》(1972年)《煤けた菓缶と魚》(1975年)《パンのある机》(1976年)《牛乳缶とランプ》(1977年)《杏漬と鯨など》(1981年)他
2021 令和3年	「色彩の韻律」	《壁際》(1972年)《錆びた牛乳缶とランプ》(1977年)《厨卓》(1993年)《假面》(1995年)《柿》(1996年)《燻製鯨》(1997年)《ポスターのある静物》(1998年)《テラコッタ》(1999年)《コーヒー挽きがある部屋》(2000年)他
2022 令和4年	「季節の韻律」	《アマリリス》(1965年)《梅ほころぶ》(1965年)《川内風景》(1966年)《新緑仙台》(1968年)《早春の丘》(1975年)《静かな時間》(1984年)《あけび》(1988年)《春日》(1990年)《晩秋蔵王》(1993年)《アフガニスタンの餅》(1995年)《枯れた花》(1999年)《花曇り》(2001年)他
2023 令和5年	「構成の韻律」	《港の窓》(1948年)《牛骨と舵輪》(1958年)《ルパンカとソムブレロ》(1960年)《パンとチーズ》(1961年)《鶏と水指》(1963年)《緑の水ビンとランプなど》(1968年)《壺》(1974年)《花とラッパ》(1980年)《秤のある卓》(1997年)他



特別協力：仙台市 カメイ美術館

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 NHK 仙台放送局 tbc 東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ khb 東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

	年度	会期	展覧会・関連企画 ※講師敬称略
2014	平成 26 年	11 月 23 日～1 月 25 日	塩竈市杉村惇美術館開館記念特別展「杉村惇の世界～静謐な黒の世界～」 11/23 杉村豊名誉館長ギャラリートーク 11/30 造形ワークショップ「立体で絵画をつくろう」講師：佐野美里（彫刻家） 12/7 「記念講演会」有川幾夫（宮城県美術館館長） 1/11 絵画ワークショップ「モノのきおくを描こう」講師：朝倉弘平（画家）
2015	平成 27 年	3 月 8 日～4 月 12 日	市民所蔵の杉村惇作品展 3/8 「記念講演会」塗師祥一郎（日本芸術院会員・日展理事・日洋会理事長） 3/8 杉村豊名誉館長ギャラリートーク 3/13 サロンドゥータイム 3/22 ギャラリートーク／吾妻篤（日展会友） 4/5 ギャラリートーク／櫻井忠彦（行動美術協会会員）
		11 月 21 日～1 月 24 日	杉村惇・修練の軌跡スケッチ展—塩竈時代を中心に 11/23 記念講演「詞・杉村顕道と絵・杉村惇による昭和 24 年『宮城縣郷土かるた』から見る「いま」 土方正志（有限会社荒蝦夷）／杉村翠（杉村顕道氏ご息女）・杉村豊名誉館長 11/23 「宮城縣郷土かるたで遊ぼう」 11/27・12/19 サロンドゥータイム 11/28 墨画で杉村画伯のスケッチにもある椿を描く講座／講師：一関恵美（墨画家） 12/5 「かるたの読み札をつくろう」講師：渡辺誠一郎（俳人） 12/19 ギャラリートーク／櫻井忠彦（行動美術協会会員） 12/26 「巨大絵札をつくろう」講師：浅野友理子（画家） 1/9 ギャラリートーク／櫻井忠彦（行動美術協会会員） 1/9 ギャラリートーク／伊藤直美（カメイ美術館学芸員）・杉村豊名誉館長 1/9 開館一周年記念イベント「巨大かるた大会」
2016	平成 28 年	7 月 21 日～7 月 31 日 11 月 19 日～1 月 22 日	杉村惇作ポスター展 写実を超えて—静物学者・杉村惇 見果てぬ到達点— 11/23 杉村豊名誉館長ギャラリートーク 11/23 記念講演会「杉村惇 その人と芸術」酒井哲朗（福島県立美術館名誉館長） 11/25 「堤人形 干支人形絵付けワークショップ」講師：佐藤明彦（つつみのおひなっこや） 12/2 当館学芸員ギャラリートーク 12/8・17 サロンドゥータイム 12/9 「珈琲とデッサン会」 12/9・10 チョコレート工房クレオバンテール × 塩竈市杉村惇美術館
2017	平成 29 年	11 月 18 日～1 月 21 日	生誕 110 年 杉村惇作品展—塩竈時代を中心に 11/19 記念講演会「杉村惇—その人と作品に学んだもの」渡辺雄彦（宮城教育大学名誉教授） 11/23 当館学芸員ギャラリートーク 12/3 ワークショップ「俳句カフェ～杉村惇作品を詠む」講師：渡辺誠一郎（俳人） 12/10 ギャラリートーク／早坂貞彦（東北生活文化大学名誉教授） 12/17 杉村豊名誉館長ギャラリートーク 12/17 ワークショップ「心と脳のコミュニケーション タネから描こう!りんごのバステル画」 講師：さとう芳子（臨床美術士） 1/14 サロントーク「絵画の命を引き立てる—杉村惇作品に見る額装のヒミツ」 浅尾空人（浅尾拂雲堂四代目）× 杉村豊名誉館長
2018	平成 30 年	4 月 3 日～4 月 15 日 9 月 8 日～10 月 28 日 1 月 5 日～1 月 20 日 3 月 15 日～3 月 31 日	杉村惇作鹽竈神社氏子三祭ポスター展 杉村惇作品展 存在と空間の伝説～海の韻律～ 9/15 My バステル画「色面とマチエール（絵肌）」講師：さとう芳子（臨床美術士） 9/30 杉村豊名誉館長によるインタラクティブトーク 10/13 当館学芸員ギャラリートーク 杉村惇作ポスター展 杉村惇作小作品展
2019	令和元年	11 月 23 日～1 月 19 日	杉村惇作品展 存在と空間の伝説～画室の韻律～ 12/7 ギャラリートーク／渡辺雄彦（宮城教育大学名誉教授） 12/21 ギャラリートーク／櫻井忠彦（行動美術協会会員） 1/11 杉村豊名誉館長ギャラリートーク
2020	令和 2 年	11 月 21 日～1 月 17 日	杉村惇作品展 存在と空間の伝説～静寂の韻律～ 12/5 リモートギャラリートーク／有川幾夫（前宮城県美術館館長）、杉村豊名誉館長 1/7 「flower art museum～絵画の中の花を組む～」講師：大塚のぞみ（Botanical People） 音声ガイド／櫻井忠彦（行動美術協会会員）
2021	令和 3 年	11 月 20 日～1 月 16 日	杉村惇作品展 存在と空間の伝説～色彩の韻律～ 11/28 「flower art museum～絵画の中の花を組む～」講師：大塚のぞみ（Botanical People） 12/12 市制施行 80 周年企画「文化と塩竈」講師：渡辺誠一郎（俳人） 12/18 杉村豊名誉館長ギャラリートーク 音声ガイド／櫻井忠彦（行動美術協会会員）
2022	令和 4 年	11 月 19 日～1 月 15 日	杉村惇作品展 存在と空間の伝説～季節の韻律～ 11/16 「杉村惇画伯の絵のマチエールに学ぼう」講師：早坂貞彦（東北生活文化大学名誉教授） 11/23 「Ensemble Space 風景を栽える」 ダビット・ヤジンスキー（クラリネット）吉岡知広（チェロ）菅原紀子（ピアノ） 12/14 「flower art museum～絵画の中の花を組む～」講師：大塚のぞみ（Botanical People） 12/17 杉村豊名誉館長ギャラリートーク 音声ガイド／櫻井忠彦（行動美術協会会員）
2023	令和 5 年	11 月 18 日～1 月 21 日	杉村惇作品展 存在と空間の伝説～構成の韻律～ 11/25 「柘榴を描く」講師：渡辺雄彦（宮城教育大学名誉教授） 12/3 「flower art museum～絵画の中の花を組む～」講師：大塚のぞみ（Botanical People） 1/13 杉村豊名誉館長ギャラリートーク 音声ガイド：解説 櫻井忠彦（行動美術協会会員）

○塩竈市美術展関連企画「塩竈市美術展杉村惇賞受賞者展」

実施年度：2015年度・2018～2023年度

塩竈市美術展は、戦後間もない1947年、故・杉村惇画伯が中心となって市民の美術愛好者によって始まりました。これまで大きな災害や財政的な困難な時期もありましたが途絶えることなく開催され、2024年で第77回を迎えます。宮城県内では河北美術展に次ぐ歴史ある美術展です。本展は、塩竈市美術展の「杉村惇賞」受賞者に副賞として当館での個展の機会が提供されるものです。

年度	会期	タイトル	
2015	平成27年	11月10日～15日	塩竈市美術展杉村惇賞受賞者展
2018	平成30年	11月6日～11日	塩竈市美術展 杉村惇賞ならびに教育委員会教育長賞受賞者展
2019	令和元年	11月9日～17日	杉村惇賞受賞者 諏訪堯美展
2020	令和2年	11月10日～15日	杉村惇賞受賞者 小泉百合子 人物展
2021	令和3年	11月9日～14日	杉村惇賞受賞者 佐藤茜祥 温かさのある書、日常に書求めて
2022	令和4年	11月8日～13日	杉村惇賞受賞者 櫻井新一個展 静物と風景画
2023	令和5年	11月7日～12日	塩竈市美術展賞受賞者 三人展

後援：塩竈市 塩釜市芸術文化協会 塩竈市美術展実行委員会

②教育普及

●本市ゆかりの作家を中心にした多様な芸術分野の作家支援及び作品の調査研究

○若手アーティスト支援プログラム Voyage

塩竈にゆかりのある若手アーティストの意欲的な表現活動をサポートし、発表の場を提供しています。具体的には、展覧会やトーク、ワークショップなど多様な表現の機会を設けています。これまで、多くの人々にとって新たな才能や感性と出会える場となるよう毎年度ごとに異なる作家と共に取り組んできました。

特別審査員 ※敬称略

2019（令和元）～2021（令和3）

藤浩志（美術家） 三瀬夏之介（日本画家・東北芸術工科大学教授） 和田浩一（宮城県美術館学芸員）

2022（令和4）

石倉敏明（人類学者・秋田公立美術大学大学院准教授） 小田原のどか（彫刻家・評論家） 三瀬夏之介（日本画家・東北芸術工科大学教授）

2023（令和5）～2024（令和6）

石倉敏明（人類学者・秋田公立美術大学大学院准教授） 小田原のどか（彫刻家・評論家） 鹿野護（デザイナー・東北芸術工科大学教授）

2015年度 佐野美里彫刻展「Say Hello！」2015年7月18日～8月30日



（写真：佐藤紘一郎）

女性としての自分自身であり、憧れの対象でもある女性の多面性を、犬の姿で表現する彫刻家・佐野美里による個展。木を命あるものとしてとらえ、木の個性を生かすよう一彫り一彫りを大切にしながら制作した高さ2mの《歯ざりミックス》を含む過去の作品や《甘噛みサルーキ》などの新作による彫刻作品16点とドローイング作品15点を展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2015 平成27年	7/18 ギャラリートーク
		7/25 ライブ「犬の晚餐会」出演：青谷明日香 協力：フランス料理店シェヌー
		8/1 coppa!～彫刻の端材（木っ端）を使ったワークショップ～
		8/8 クロストーク「言語を使わないコミュニケーション」佐野美里×相澤裕介（言語聴覚士）

佐野美里：彫刻家。1987年宮城県多賀城市出身。東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科専攻彫刻領域修了。

2016 年度 鈴木祥太・浅野友理子 二人展「日々是好日 -根づくもの 脈々と」

2016年5月3日-6月19日



▲鈴木祥太（企画展示室1）



▲浅野友理子（企画展示室2）

（写真：佐藤紘一郎）

金属造形作家・鈴木祥太、画家・浅野友理子による展覧会。自然界に息づく植物を主題とした金工作品を制作する鈴木は、伝統的な金工技術によって、植物の持つしなやかさを金属の硬さの中に細密に表現し、本展では、代表作「蒲公英」をはじめ、「鹽竈桜」を題材とした新作を展示しました。風土に寄り添い暮らす人々や各地に根づく生活文化を主題とする浅野は、塩竈市浦戸諸島の「白菜」を題材とした新作（1.9m × 3.6m）を含む絵画作品を展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2016 平成 28 年	5/3 ギャラリートーク 5/4 金工ワークショップ「錫を叩いて豆皿をつくろう」講師：鈴木祥太 5/7 クロストーク「絵をよむ ー海を耕す人ター」 謝黎（東北芸術工科大学歴史遺産学科准教授・東北文化研究センター研究員）× 浅野友理子 6/5 「浦戸の恵みを学ぼう、食べよう ～春の息吹、菜の花～」協力：食の学人の会 6/11 Voyage live program「風景を描く音」出演：KUDANZ×次松大助 EARLY CROSS

鈴木祥太：金属造形作家。1987年宮城県塩竈市出身。2010年東北芸術工科大学芸術学部美術科工芸コース卒業。

浅野友理子：画家。1990年宮城県多賀城市出身。2015年東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科修士課程修了。

協力：東北芸術工科大学

2017 年度 ハタユキコ展「夏の幻視」

2017年7月22日-9月10日



（写真：佐藤紘一郎）

社会の複雑極まりない様相から人間の繊細な内面まで描き出し、作品を読み解いていくカギともなる豊富な要素と鮮烈な色彩で観る者をひきつける画家・ハタユキコによる個展。266×388cmの大作《ワンダフルニッポン》や、塩竈をリサーチし描いた新作《キツネの遊女屋》を含む14点を展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2017 平成 29 年	7/30 ワークショップ「顔出し!ダンボール大漁旗をつくろう」講師：ハタユキコ 8/11 クロストーク「絵画の企みを読み解く」 三瀬夏之介（日本画家・東北芸術工科大学教授）× 坂本大三郎（山伏・イラストレーター） × ハタユキコ 8/27 身体表現ワークショップ「ゆらゆら!まっすぐ脱線ダンス。」 ファンリテーター：川畑えみり（ダンサー）

ハタユキコ：画家。1988年宮城県仙台市出身。2014年東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術文化専攻修了。

2018年度 氏家昂大・田中望展「土のみち 土のさち」

2018年7月7日-8月26日



▲氏家昂大（企画展示室1）



▲田中望（企画展示室2）

（写真：佐藤紘一郎）

陶芸家・氏家昂大、画家・田中望による展覧会。釉薬のひび割れ「貫入」に漆を染み込ませる技法上の独創性を活かしながら、素材に秘められた可能性を引き出す氏家は、塩竈を題材とした新作《漆貫入彩御深井鉢（銘：塩海）》を含む陶芸作品を展示。各地のフィールドワークや資料調査に基づいた制作プロセスをふまえて、自身の実体験も基調にした作品を制作し、場所と人間の関係性を問いかける田中は、塩づくりを題材にした連作と塩竈のフィールドワークについて綴った記録集「しおがまフィールドノート」をあわせて展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2018 平成30年	7/15 クロストーク「場所をめぐる話 -記録と創造の間から-」 石倉敏明（芸術人類学者・秋田公立美術大学大学院准教授）× 田中望 7/21 ギャラリートーク 7/21 陶芸ワークショップ「植木鉢をつくろう」講師：氏家昂大

氏家昂大：陶芸家。1990年宮城県仙台市出身。2015年東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻工芸研究領域修了。

田中望：画家。1989年宮城県仙台市出身。2017年東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻博士後期課程修了。

共催：塩竈市 協力：東北芸術工科大学 TOHOKU CALLING

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

2019年度 阿部明子・是恒さくら展「闊-いき-を編む」

2019年7月6日-8月25日



▲阿部明子（企画展示室1）



▲是恒さくら（企画展示室2）

（写真：大江玲司）

写真家・阿部明子、美術家・是恒さくらによる展覧会。自身が生活を送る場所の特性や生活の中で繰り返し見続ける風景を主題に、複数の写真のレイヤーを重ねた作品をはじめ写真の新しい表現方法を模索し、その可能性を追求する阿部は、鹽竈神社に奉納された算額に学び、和算の視点を取り入れた新作を展示。国内外の捕鯨、漁労文化についてフィールドワークと採話をし、リトルプレスや刺繍、造形作品として発表、鯨と人との関係性にとどまらず自然と人との尊い結びつきを伝える是恒は、松島湾域に残る鯨の骨に焦点を当てた新作を展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2019 令和元年	7/13 ギャラリートーク 8/4 ワークショップ「風景を裁ち合わせてみよう」 講師：佐藤健一（和算研究家・日本数学史学会会長）、阿部明子 8/17 陶芸ワークショップ「つくりかえる：骨のある生活」 講師：KAIZOKU [根本裕子（陶芸家）・是恒さくら] 8/24 クロストーク 遠山昇司（映画監督・プロデューサー）× 是恒さくら

阿部明子：写真家。1984年宮城県美里町（旧小牛田町）出身。2007年東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科映像コース（現映像学科）卒業。

是恒さくら：美術家。1986年広島県呉市出身。2010年アラスカ州立大学フェアバンクス校卒業。2017年東北芸術工科大学大学院修士課程地域デザイン研究領域修了。

共催：塩竈市 協力：志波彦神社・鹽竈神社 日本数学史学会 岩手県和算研究会 七ヶ浜町歴史資料館

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

2020年度 かのさゆり・菊池聡太郎展「風景の練習 Practicing Landscape」

2021年2月6日～3月28日



▲かのさゆり（企画展示室1）

▲菊池聡太郎（企画展示室2）

（写真：松山隼）

写真家・かのさゆり、建築／美術作家・菊池聡太郎による展覧会。現代日本の都市空間の奇妙さとその中で生きる人々の光景を主なテーマに、風景からこの時代の心性と人々の動向までを映し出そうとするかのは、仙台近郊や沿岸地域で撮影した新しい風景や住宅地を中心とした写真作品を展示。主に風景のドローイングや石・木などの立体物、建築素材を用いて、作品・空間との出会い方や経験を変化させるようなインスタレーションに取り組み、留学先のインドネシアで出会った増改築をくり返す特異な家についての空間性や変容の痕跡を記録するフィールドワークを行った菊池は、その家についての考察に塩竈でのリサーチで出会った素材を加えたインスタレーションを展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2021 令和2年	プレ企画クロストーク 五十嵐太郎（東北大学大学院教授・建築史家・建築批評家）× かのさゆり × 菊池聡太郎 2/13 ギャラリートーク 2/23 風景について考えてみるイベント「歩行」 3/14 クロストーク 畠山直哉（写真家）× かのさゆり × 菊池聡太郎

かのさゆり：写真家。1979年宮城県出身。2002年東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科映像コース（現映像学科）卒業。

菊池聡太郎：建築／美術作家。1993年岩手県出身。2017-2018年インドネシア共和国ガジャマダ大学留学。2019年東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻修了。

共催：塩竈市 助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

2021年度 大久保雅基・佐竹真紀子展「波紋のかなたに」

2021年7月17日～9月5日



▲佐竹真紀子（企画展示室1）

▲大久保雅基（企画展示室2）

（写真：松山隼）

美術作家・佐竹真紀子、作曲家・大久保雅基による展覧会。佐竹は、主に絵画に取り組み、震災後の東北各地で目にする風景と、人々に聴く暮らしの情景とを重ね合わせた表現を思考、塩竈で出会った人々と対話を重ね、人の中に宿る塩竈の面影と、塩竈の風景とを繋ぐ新作を展示。電子音響音楽、コンピュータ音楽、室内楽、インスタレーション、映像等の表現手法を用いて新たな音楽体験を創造する大久保は鹽竈神社を参照し、自然現象の振る舞いを理解し天災を鎮めるための神域を、新型コロナウイルス感染拡大によって生まれた「サウンドスケープ」を取り入れ表現したサウンドインスタレーションを展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2021 令和3年	7/24 サウンドインスタレーション「潮紋祭」パフォーマンス：大久保雅基 7/24 おしゃべり会（聞き手：佐竹真紀子） 7/24 クロストーク 大久保雅基 × 飯沼由和（役者）× 尾崎森平（美術家） 7/31 ギャラリートーク

大久保雅基：作曲家。1988年宮城県仙台市出身。洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース卒業。情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] メディア表現研究科修士課程修了。

佐竹真紀子：美術作家。1991年宮城県出身。2016年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。

共催：塩竈市 助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市） 協力：志波彦神社・鹽竈神社

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

2022年度 鈴木史 個展「Miss. Arkadin」
工藤玲那 個展「アンパブリック マザーアンド チャイルド」
 2022年7月16日-9月4日



▲鈴木史 (企画展示室1)



▲工藤玲那 (企画展示室2)

(写真：大江玲司)

映画監督／美術家／文筆家・鈴木史と、ビジュアルアーティスト・工藤玲那による個展。自身の経験に深く根ざしたジェンダーへの意識に基づき作品を制作する鈴木は「見られること」をコンセプトに、身の回りの人物との会話風景をもとに作品化。自身のルーツを辿り過去を見つめ、新作短編『祈ることは思考すること』を含む映像作品、インスタレーションを展示。工藤は、各地での出会いや個人的な記憶、経験をもとに、絵画や陶芸をはじめ、あらゆる表現媒体で制作。固定化された意識や概念を根底から解きほぐそうとする試みを展開、塩竈の「母子石」を切り口に、作家自身の母との共同制作を行いました。母・リャンさんは中国出身であり、最も母のルーツを感じるという「料理」を題材に共同制作した作品を展示しました。

関連企画	年度	内容 ※敬称略
	2022 令和4年	6/12 プレイベント「来来去去 (らいらいちゅーちゅー)」 講師：工藤玲那 7/16 ギャラリートーク 7/17 鈴木史監督作品上映会+トークイベント 小田原のどか (彫刻家・評論家) × 鈴木史 8/20・9/3 パフォーマンス「リャンさんは行ったり来たり。」

工藤玲那：ビジュアルアーティスト。1994年宮城県出身。2017年東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース卒業。

鈴木史：映画監督・美術家・文筆家。1988年宮城県塩竈市出身。映画美学学校フィクションコース修了後、映画美術スタッフとしての活動を経て、東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻監督領域修了。

共催：塩竈市 助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団 (仙台市)

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 TBC東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

2023年度 釣舟富紀子展「ROADSTEAD」 折田千秋展「コレクティブ・イメージ」
 2023年7月15日-9月3日



▲釣舟富紀子 (企画展示室1)



▲折田千秋 (企画展示室2)

(写真：大江玲司)

画家・釣舟富紀子、現代美術作家・折田千秋による個展。釣舟は、幼少より慣れ親しむ塩竈や周辺地域の風景を題材に、一見ポップな描写でありながら密やかに潜在的なまちの姿を提示します。塩竈にゆかりある方々へ歴史のほか個人的体験・思い出のヒアリングなどを行い制作、かつての「七清水」と呼ばれる七か所の水源について、かつての塩竈と現在移ろう風景、空想を織り交ぜ、地域のアイデンティティを浮かび上がらせる作品を展示。折田は「もの」と「ひと」の関係性を見つめ直し、その距離感や認知の違いを様々な手法で表現。各地で展開してきたプロジェクト「コレクティブ・イメージ」=「印象の集合知」を、塩竈にゆかりある方々の協力のもと取り組み、人々が風景から感じる「印象の色」を媒介に、膨大な写真素材から再構築した作品を制作。“塩竈らしい”と捉えられる風景に加え、スーパーマーケットを対象とした新作を展示しました。

関連企画	年度	内容 ※講師敬称略
	2023 令和5年	7/15 ギャラリートーク 7/16 クロストーク 本江正茂 (建築家・東北大学大学院准教授) × 折田千秋 8/12 ネオ塩竈まち歩き ナビゲーター：田中一裕 (動物生理生態学・宮城学院女子大学教授)

釣舟富紀子：画家。1993年宮城県塩竈市出身。京都精華大学マンガ学部マンガ学科卒業。

折田千秋：現代美術作家。1993年青森県十和田市出身。静岡文化芸術大学卒業、東北大学大学院工学研究科修了。

共催：塩竈市 助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団 (仙台市)

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 tbc東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ khb東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM 宮城ケーブルテレビ株式会社 仙台リビング新聞社

●文化芸術に関する講座やワークショップ等の開催

○こども探偵事務所 実施年度：2016年－2023年／年4回

作品や対象物の観察、絵画や造形など様々な調査体験を通じて、児童の知性や感性を育む美術館体験プログラムです。こどもたちにとって、美術館が好奇心をくすぐる刺激ある場所になるよう、こどもたちの興味関心を引き出しながら展開しています。

※本プログラムは、美術館ボランティア「JUNBI サポーター」の太田和美さんの企画で発足しました。

調査対象は、杉村惇画伯が描いた代表的なモチーフ「魚」「柘榴」「ランプ」「マリオネット」です。毎年ひとつのモチーフについて様々な角度から調査体験を行います。モチーフの観察や立体造形など多角的なワークを通じ、杉村画伯を魅了したモチーフへの興味関心を育んだり、杉村画伯のまなざしを想像する機会をつくっています。



年度	開催日	タイトル ※講師敬称略
2016 平成 28 年	5月22日	こども探偵事務所 開設：こどものための美術館ツアー
	8月11日	指令2「大講堂を調査」
	10月29日	指令3「常設展示室に隠されたクイズを解く」
2017 平成 29 年	1月7日	指令4「絵画の中にあるモチーフ探し」
	5月13日	指令5「ざくろのなぞ」
	8月19日	指令6「夏休み番外編・いろいろな色を調査」
	10月7日	指令7「ざくろの実を調査」
2018 平成 30 年	1月13日	指令8「特別企画展の作品を調査」
	5月26日	指令9「ランプが描かれた作品を調査」
	8月4日	指令10「いろいろなランプのかたちを調査」
	10月20日	指令11「いろいろなランプのかたちを調査」※チルミュしおがま 2018 内
2019 平成 31 年	1月12日	指令12「いろいろなランプのかたちを調査」
	5月11日	指令13「魚が描かれた作品を調査」
	8月3日	指令14「絵の具の立体感を調査」
	10月19日	指令15「《焼いた魚》を調査」
2020 令和 2 年	1月18日	指令16「いろいろな魚を調査」
	オンライン配信	指令17「お気に入りの人形を調査」
	8月15日	指令18「マリオネットを調査」
	オンライン配信	指令19「ハンベルマンをつくろう」 ※チルミュしおがま 2020
2021 令和 3 年	12月19日	指令20「マリオネットを作ろう」講師：吉田愛美（彫刻家）、協力：交衣室 mege
	5月15日	指令21「ざくろの作品を調査」
	8月7日	指令22「ざくろが描かれた世界の名画を調査」
	10月17日	指令23「ざくろの実を調査」講師：吉田愛美（彫刻家）
2022 令和 4 年	11月21日	指令24「ざくろの実を調査」講師：松山隼（当館学芸員）
	5月14日	指令25「ランプが描かれた世界の名画を調査」
	8月6日	指令26「ランプコレクションを調査」
	10月15日	指令27「いろいろなランプのかたちを調査」
2023 令和 5 年	12月17日	指令28「ステンドグラスを調査」講師：武田奈未（stained glass Ginga）
	5月13日	指令29「魚が描かれた世界の名画を調査」
	8月5日	指令30「魚が描かれた作品を調査」
	10月14日	指令31「絵肌（マチエール）を調査」
	12月16日	指令32「《魚》を調査」講師：川角由（造形作家）

JUNBI サポーター：太田和美、阿部威 協力：宮城県宮城野高等学校
共催：みやぎ県民文化創造の祭典（芸術銀河）（指令20、23、24、28、32）

○定期講座

2階サロンを活用し、初心者から気軽に学べる墨画講座や木版画講座、専門家による技法などの基礎の習得を目的とした講座、伝統工芸を現代に受け継いだ乾漆ブローチや金継ぎなど古くから受け継がれてきた技を学びながらものづくりを体験できるワークショップを継続的に実施してきました。

2022年度からは、絵画や書など各分野の専門家を講師に迎えて、楽しみながら基礎知識を学び、興味、関心を深めるための講座「プラクティス」シリーズを開講しています。また、毎年度の活動成果は「アーカイブス展 PRPGRAMS」にて発表しています。



年度	講座名	講師名 ※敬称略
2016 平成 28 年	はじめての墨画	一関恵美
	からだを動かすワークショップ	磯島未来
	木版画でブックカバーをつくろう	小野智香
2017 平成 29 年	乾漆ブローチワークショップ	Fablab SENDAI - FLAT
	はじめての墨画	Fablab SENDAI - FLAT
	からだを動かすワークショップ	一関恵美
2018 平成 30 年	木版を彫ってみよう一季節の一筆箋一	磯島未来
	はじめての墨画	小野智香
	自分だけの木版画「黒で刷ろう」	一関恵美
2019 令和元年	乾漆ブローチづくり 監 籠桜／一森山／松島湾の雪景色	小野智香
	flower art museum ～絵画の中の花を組む～	Fablab SENDAI - FLAT
2020 令和 2 年	墨画講座	大塚のぞみ (Botanical People)
	墨画講座	一関恵美
2021 令和 3 年	墨画講座	一関恵美
2022 令和 4 年	アフタヌーンプラクティス「色鉛筆画講座」	佐藤直樹
	アフタヌーンプラクティス 折り紙でつくる「テラコッタ」「魚」	芦村俊一
	flower art museum ～絵画の中の花を組む～	大塚のぞみ (Botanical People)
	モーニングプラクティス「遊字画」	斉藤文春、丹野萩逯
	書道塾 tane の墨あそび	櫻井育子
2023 令和 5 年	スタンドグラス講座	武田奈未 (stained glass Ginga)
	アフタヌーンプラクティス「鉛筆デッサン講座」	今野裕結
	アフタヌーンプラクティス「色鉛筆画講座」	佐藤直樹
	flower art museum ～絵画の中の花を組む～	大塚のぞみ (Botanical People)
	モーニングプラクティス「遊字画」	斉藤文春、丹野萩逯
	モーニングプラクティス「油絵講座」	松山隼



○サタデーナイトスタディ 実施年：2018－2023 年度

美術に造詣の深い講師陣を迎えての基礎教養講座では、市民の美術に関する感性を養うとともに、知識の向上を図りました。テーマによっては、文学、映画、写真など関連領域の要素や素材を取り入れるなど、美術に関心の薄い層への働きかけを強めています。

	年度	講座名		講師名 ※敬称略
2018 年	平成 30 年	美術と美術館をもっと楽しむためのサタデーナイトスタディ	Vol. 1	関口麻穂（当館学芸員）
			Vol. 2	和田浩一（宮城県美術館学芸員）
Vol. 3	齋藤しずえ（菅野美術館学芸員）			
Vol. 4				
2023 年	令和 5 年	酒にまつわる話－絵画と文学（俳句）		庄子幸一（美術家） 渡辺誠一郎（俳人・当館館長）



高齢者に対応するプログラムについては、老人クラブなどへの出前講座、体の機能が弱っている方々を主たる参加者とする作品鑑賞会（ギャラリーガイド）、手軽に創作・表現活動を体験でき心身の機能維持やリハビリテーションにもつながるワークショップの提供、さらには関心の高い健康や介護予防との関係に留意し、理学療法士・作業療法士等のセラピスト、介護福祉士、地域包括支援センターなど高齢者支援サービスの最前線の担い手とともに、関係専門機関からヒントを得たり連携を図りつつ、手法の開発に努めました。また、学習機会の提供だけでなく、「まちと記憶」をテーマとする事業の一環として個々人の体験や記憶を提供してもらうなど、高齢者自身が活かされるプログラムづくりを工夫しています。

※地域包括支援センター等との連携事業

●学校教育と連携したプログラムの実施

2015 年からは学校教育課と連携しての塩竈市内小学 5 年生全員を対象とする美術鑑賞プログラム、2016 年度、2018 年度、2020 年度には、公募による「こどもと伝える 海とみなとまちの風景展」を実施、さらに県内の高等学校とのプログラム連携を図っています。今後は、学校の児童・生徒および教職員のニーズや反応を把握し、手法の工夫や新たな事業の企画を模索しています。

○市内小学 5 年生対象美術鑑賞プログラム 実施年度：2019 年度より毎年度実施

美術館を教材とする学校教育の取り組みの支援や芸術鑑賞を通じた児童の感性を醸成することを目的に、当館にて美術鑑賞をする機会を提供しています。展示室では学芸員によるギャラリートーク、自由鑑賞時間も設けての作品鑑賞。市有形文化財である当館の特長ある建物の解説を交えて見学しています。

未来を担う児童・生徒たちが成長過程の重要な時期に美術館で過ごし、感性や思考を刺激する経験を得られるような場の充実を図っていきたいと考えています。

年度	来場児童数
2015 平成 27 年	未実施
2016 平成 28 年	411
2017 平成 29 年	407
2018 平成 30 年	393
2019 令和元年	不実施*
2020 令和 2 年	342
2021 令和 3 年	416
2022 令和 4 年	342
2023 令和 5 年	342

*新型コロナウイルス感染防止のため



○こどもと伝える 海とみなとまちの風景展 実施年度：2016年度・2018年度・2020年度

地域に根づく習慣やお祭り行事、自然風土など、未来を担う児童・生徒たちが自ら住んでいる地域の風景や営みに関心を持ち、美術表現を通して誇りや愛着を育んでいくことを目的に、こどもたちが描く海とみなとまちの風景画の公募を実施。公募作品は街中を彩る形態で展示しました。また開催初年度には、関連イベントとして、浦戸諸島の風景をとらえた大宮エリー氏の描きおろし作品の特別展示をはじめ、地域資源にふれる食のイベント、スケッチ会を実施しました。

地域の児童生徒が、日常風景を観察し、どんなまちで、どんな人々と共に生きているかを知るきっかけとなり、また地域の文化資源に触れる機会となりました。



共催：塩竈市
協賛：協同組合連合会塩釜水産物仲卸市場 塩釜市芸術文化協会
志波彦神社・鹽竈神社 特定非営利活動法人 NPO みなとしほがま べんてる株式会社
協力：小山登美夫ギャラリー 大宮エリー事務所（2016年度）
後援：tbc 東北放送 ミヤギテレビ 仙台放送
khb 東日本放送 河北新報社 朝日新聞仙台総局
毎日新聞仙台支局 仙台リビング新聞社 エフエム仙台

年度	会期・開催日	タイトル ※敬称略
2016 平成 28 年	9月17日ー10月2日	展覧会（塩竈市杉村惇美術館、ビルドスペース、ふれあいエスブ塩竈）
	9月17日ー10月31日	屋外展示（マリンデッキ）
	9月19日	授賞式、もう中学生先輩とつくる ダンボール風景画
	9月22日	吾妻篤先輩と行くスケッチ会（マリンゲート塩竈）
	9月25日	大宮エリー先輩が描く うみのある風景
	9月29日	ライブゲスト：ウクレレジプシーキヨサク from MONGOL800 TAVERNA GIRO 先輩とつくる おいしい地元食材料理！（塩釜水産物仲卸市場）
2018 平成 30 年	11月17日ー12月2日	展覧会（塩竈市杉村惇美術館、ビルドスペース、ふれあいエスブ塩竈）
	11月18日	授賞式
	11月25日	吾妻篤先輩と行くスケッチ会（マリンゲート塩竈）
2020 令和 2 年	10月24日ー11月1日	展覧会（塩竈市杉村惇美術館）
	10月25日	授賞式

○小中学校アートプロジェクト（協力事業） 実施年度：2021年度より毎年度

市制施行80周年を記念し、2021年度より塩竈市内の小中学校の児童・生徒を対象にアーティストと児童・生徒が共同制作に取り組むアートプロジェクトが始動しました。本プロジェクトは、アート作品の制作過程を通し、未来の芸術・文化を支える人材を育成するとともに、愛校精神やシビックプライドの醸成を図ることを目的としています。当館は、技術面や人的サポートを行いました。



年度	タイトル／講師	実施校
2021 令和 3 年	壁画共同制作 講師：朝倉弘平	塩竈市立第二小学校
2022 令和 4 年	布貼り絵共同制作 講師：しょうじこずえ	塩竈市立杉の入小学校
2023 令和 5 年	ジオラマ共同制作 講師：釣舟富紀子	塩竈市立第一小学校

主催：塩竈市生涯学習課 企画・運営：ビルド・フルーガス 協力：塩竈市杉村惇美術館 宮城県塩釜高等学校

○そのほかの協力事業

- ・塩竈市立第一中学校総合学習講座「うしおの教室」ちぎり絵作品展示
- ・宮城野高等学校「実習・体験ゼミナール」出前型講座の実施及び体験学習の支援
- ・職場体験

●文化芸術に関する市民等への情報発信及び普及・啓発活動

○市民ギャラリーにおける発表の場の提供

※市民ギャラリー一般利用促進期間（4、6、9、2月の4期）※必要に応じ特別協力等の支援

市民等による表現活動や地域における芸術活動の促進を図るため、作品発表の場を提供します。また、展示における技術的なサポート及び広報協力を行い、市民の表現活動を様々な角度から支援しています。

市民の主体性及び能力を発揮する機会を創出するとともに、市民参加型学習機会や表現活動の充実を図っています。

年度	会期	タイトル
2015 平成 27 年	9月8日-13日	空の作品展
	9月19日-27日	高橋りく・マリス個展
	10月10日-18日	IBIZA 20th PHOTO Exhibition
	11月1日-8日	佐藤直樹色鉛筆アート作品展「この空の下」
	2月3日-14日	陸前高田アーティスト・イン・レジデンスプログラム 2013-2015 展覧会
	2月17日-21日	吉田愛美個展「pray for ○」
	2月28日 3月26日-4月10日	しおがまタイムトラベル写真展 大沼英樹写真展「忘れえぬ千年桜」
2016 平成 28 年	4月20日-24日	創立 30 周年記念第7回書学社現代書展
	6月21日-7月3日	goto shota 写真展「ヒーローインタビュー」
	7月24日-31日	形而工作室 質点群
	8月6日-13日	gg Lock Art Festival in Shiogama
	10月18日-23日	蕾花日本画展
	3月9日-16日	高校生六人奇天烈絵画展がたがた展。
2017 平成 29 年	4月5日-14日	高橋温子作品展「ひるのほたる」
	7月1日-9日	LOVE&PEACE 塩釜からリオへ世界へ
	9月21日-10月1日	あなたと海のあいま、通り過ぎてゆくすべて
	10月11日-17日	富永泉紀写真展「ただいまの場所」
	10月19日-29日	佐藤直樹色鉛筆アート作品展「空を見上げるこの時を」
	2月20日-24日	今野深泉「傘寿展 併催 社中選抜書展」
	2月27日-3月4日	斉藤文春書展「一オマージュ・青木喜山&宮澤賢治」
	3月21日-25日	前原猛写真展「THIS IS A PORTRAIT 1993-2000」
	3月21日-4月1日	たんばぼこども造形教室 10th anniv. 作品展
2018 平成 29 年	3月2日-10日	小池アミゴ展覧会「東日本」
2019 令和元年	9月3日-8日	うつくしいとおもうもの
	10月12日-27日	「夢見る色 明日への光」佐藤直樹色鉛筆アート作品展
2020 令和 2 年	9月8日-13日	花と夢・みんなの書の展覧会
	9月16日-10月18日	一関恵美 墨画展 連
2021 令和 3 年	9月11日-26日	「夢と果実 光と彼方 Dreams and hope Light and beyond」佐藤直樹色鉛筆アート作品展
	10月2日-17日	太田和美個展「choo choo choose」
	3月18日-21日	二階堂表具店「表装展 写真コロガ展」
2022 令和 4 年	10月25日-30日	第 20 回塩竈パレット展
	3月5日-30日	写真展またたき in 塩竈
2023 令和 5 年	9月21日-24日	柴田洗香個展「ぼとん」
	9月20日-10月1日	goto shota travelogue I FEEL SO GOOD - photograph and illustrations -
	10月7日-15日	3つの視座（3.11の記憶と未来）
	10月19日-29日	「-たのしむ・対話する・記録する-」高野葉子作品展
	10月21日-29日	第二回蕾花日本画展
	3月20日-24日	日野沙耶展「華と影」

○美術館ボランティア「JUNBI サポーター」

美術館ボランティア（JUNBI サポーター）登録制度を運用し、研修機会を設けて、一人ひとり異なる経験、知識、特技、意欲にあわせた多彩な活動ができるように、「自分を活かす」「自分にも何かできる」といった参加体験を通して幅広い年齢層の市民がそれぞれに意欲や感性を高めたり、他では得られない出会いや交流が生まれるといった点を重要視することこそ社会教育施設の重要な使命と考えています。「みんなの美術館」意識を醸成することにもつながっていき、美術館展示のガイドや展覧会づくり、ニュースレターの作成、さらには JUNBI サポーターによる事業の企画など活動領域をさらに広げ、創造的な活動を通して<市民の手による美術普及活動の可能性>を育てています。



③市民協働事業

●市民主体の参加型プログラムの実施

○「まちと記憶と映画館」「まちのきおくを あつめる、かたる」

「市民は記憶の作り手であり、美術館は“記憶の収蔵庫”という考えのもと、杉村惇が塩竈に居を構えた昭和20年から40年にかけての時代背景に関する資料収集と、その時代において多くの人々が過ごした公民館での個人体験や記憶に焦点を当て、市民から寄せられた昭和時代の塩竈の記録写真やエピソードを通して、蓄積されてきた“まちの記憶”をふり返るとともに、市民と地域とのつながりを再確認し、一人ひとりが主役として地域での新たな生活を創造していくことをめざしています。

写真展の開催や資料の公開に加え、個人史や地域社会のたどってきた“あの日、あの時”を紐解きながら、エピソードを題材として思い出の情景を再現したり当時を追体験できるようなイベントを開催しています。また、塩竈市杉村惇美術館が市民にとって、昭和30年代の映画館のような文化的な刺激や好奇心を育む場所となるよう様々なプログラムを展開しています。

地域住民による塩竈の昭和30年代を中心とする写真を展示する「まちのきおくを あつめる、かたる」では、同時代を共に生きてきた人が単に懐かしむだけでなく、文字資料では伝わりにくい臨場感ある当時の様子を追体験することで、若い世代にとっても新鮮な体験となりました。このまちの歩みと人々の中で受け継がれていく地域への誇りや愛着をあらためて感じてもらう機会づくりと、次世代への記憶の継承に取り組んでいます。

「まちの記憶」を軸に、市民の記憶を継ぐことで、杉村画伯が描いた作品群と塩竈がつながり、また市民とまち、市民と美術館をつなぎながら、市民にとって地域文化を感じる拠り所のような場をつくりたいと考えています。

市民への呼びかけによって、2015年から2019年にかけて約700点の写真資料や約200件のエピソードを収集することができました。これらを活用して開催した写真展や関連企画イベントには延7,600名の入場者が集まり、半世紀以上も昔の“まちの記憶”を共有しあう場となりました。さらに、隔年で開催するプログラム「まちと記憶と映画館」では、このまちの昭和30年代の記憶を集めながら、当時の映画館が果たしたような知的好奇心をくすぐる文化の享受、そして団らんと交流の場を提供しています。2017年度における来場者の年齢構成は20～50代が37%、60代以上が63%という割合で、2019年度においても20～50代が38%、60代以上が62%となっており、両年とも60代以上が全体の半分以上を占めました。来場者の居住地については、2017年は塩竈市が35%、隣接市町村が13%、その他県内が42%、県外が10%という割合で、2019年は塩竈市が47%、隣接市町村が22%、その他県内が29%、県外が2%となっており、市内及び隣接市町村の割合の増加傾向がみられ、市民の地域に対する関心や愛着の広がりとなっている表れと考えられます。

新たな記憶づくりを目的とした、塩竈ゆかりの映画監督岩井俊二氏をお招きしてのトークイベントや、映画「リリイ・シュシュのすべて」鑑賞後の大講堂で幻想的なリリイ・シュシュのライブを体感するイベントには、全国から延600人の幅広い世代のファンらが駆けつけました。大講堂を舞台に新たな記憶を重ねる体験を共有するとともに、若年層における交流人口の創出や都市としての印象づけ、塩竈のイメージアップに微力ながらつなげたものと言えます。また、記憶の収集に協力いただいた市民や企画展来場者との関わりを通して、この事業が市民と地域を接続し、まちづくりにおける当事者意識を高めることにも寄与できたのではないかと考えられます。

“まちの記憶”を共有化し継承するこの事業をさらに充実させていくことで、地域アイデンティティを育み、美術館が世代を超えて市民の心の拠りどころとなり、まちを象徴する文化的ランドマークとして存在感を発揮していくことに期待しています。





「昭和 40 年代、大講堂では週末の夜にダンスパーティーが開催され、ダンスホールとなっていました。そこで夫と出会い結婚した」といったようなエピソードがいくつも集まったことで企画したダンスパーティーイベントでは、当時キャバレーで演奏していたことのあるバンドメンバーやダンスホールに集っていた人々、公民館のダンスサークル参加者らにスウィングダンスを楽しむ大学生等も加わり、世代を超えて大講堂でのひとときを楽しみました。

年度	開催日	展覧会・関連企画 ※講師敬称略
2015	平成 27 年 6 月 6 日ー7 月 12 日	まちと 記憶と 映画館 ～岩井俊二編～ 花とアリスのもうひとつの物語 写真展示「まちのきおくをあつめる、かたる」(写真所蔵：風の時編編集部) 「シネマ談話室」モデレーター：千葉伸一、高平大輔(映像ディレクター) 「まちのきおくをかたる会」ナビゲーター：NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台 映画上映 長編実写版「花とアリス」 トーク 岩井俊二(映画監督)、アイビー・チェン(写真家)、永田琴(映画監督) 映画上映 長編アニメーション「花とアリス殺人事件」 ヘクとパスカルライブ 映画上映「リリイ・シュシュのすべて」 Salyu× 小林武史ライブ
	6 月 6 日ー7 月 12 日	
	6 月 13 日	
	6 月 23 日	
	6 月 27 日	
	6 月 27 日	
	6 月 28 日	
7 月 4 日		
2016	平成 28 年 7 月 6 日ー7 月 18 日	「街の記憶 ー写真はふしぎ不思議」佐々木昇悦写真展 「まちのきおくをあつめるかたる」
	7 月 15 日	
2017	平成 29 年 4 月 29 日ー6 月 25 日	まちと 記憶と 映画館 ～団らんのひとつ編～ 「なつかしの映画音楽」演奏：松尾泰江(リードオルガン)、明珍幸希(チェロ) 「映画看板を描くこと」ゲスト：小笠原正治(映画看板師) 「映画と珈琲とデッサン会」共催：珈琲とデッサン会 「昭和を歌う 歌声喫茶」共催：仙台うたごえの店バラライカ 「想い出おしゃべり会」 「アニメの中の昭和の風景～アニメ 50 年の歩みと共に～」 ゲスト：丸山正雄(アニメプロデューサー) 「シネマ談話室」モデレーター：千葉伸一
	5 月 3 日	
	5 月 6 日	
	5 月 20 日	
	5 月 27 日	
	5 月 31 日	
	6 月 24 日	
6 月 10 日		
2018	平成 30 年 5 月 3 日ー6 月 24 日	まちのきおくをあつめる、かたる 小野幹写真展「昭和のしおがま」 ギャラリートーク
	5 月 26 日	
2019	令和元年 4 月 30 日ー6 月 16 日	まちと 記憶と 映画館 ～若き日の思い出編～ 写真展「懐かしのしおがま」 「Swing Dancing Party」共催：Sendai Swing Club 演奏：石関智哉(ベース) 後藤美久夫(サクソ) 是川信男(ドラム) 高見良蔵(ギター) 渡辺綾子(ピアノ) 「青春を歌う うたごえ喫茶」共催：仙台うたごえの店バラライカ 「シネマ談話室」
	5 月 18 日	
	5 月 26 日	
	6 月 8 日	
2020	令和 2 年 4 月 29 日ー6 月 21 日	まちのきおくをあつめる、かたる 昭和の写真展「昭和のしおがま ーあの頃の町並みからー」 ※新型コロナウイルスの影響により、ホームページでの写真公開と壱番館1階北側窓で展示。
2021	令和 3 年 4 月 29 日ー6 月 13 日	まちと 記憶と 映画館 ～1960 年の記憶編～ 写真展「1960 年 5 月 24 日～あの頃とそれから～」 「高台散策～春めぐり～」 ナビゲーター：すがわらじゅんいち(美術家、防災士)、鈴木邦明(郷土ウォーカー) 「bavard-cadeau とつくる防災バッグづくり」講師：bavard-cadeau 協力：一般社団法人日本高視認性安全服研究所 日本反射材普及協会 甲南女子大学 武庫川女子大学 四天王寺大学短期大学部 Fablab Sendai FLAT
	4 月 10 日・17 日	
	6 月 5 日	
2022	令和 4 年 4 月 29 日ー6 月 19 日	まちのきおくをあつめる、かたる「昭和のしおがま ー海とまちー」 会期中、毎週水曜日「思い出おしゃべり会」
2023	令和 5 年 4 月 29 日ー6 月 11 日	まちと 記憶と 映画館 ～昭和の子どもと地域の学校編～ サウンドレコーディングワークショップ「次の世代に聴かせたい音を探そう」 講師：菅原宏之(サウンドデザイナー、自然録音家) 「タイムカプセルの中身を公開!」 映画上映「Hand-Drawn: Documentary」(フェリシティ・モerland) 丸山正雄(アニメプロデューサー)×片淵須直(アニメーション監督)トークイベント 「モノクロ写真に言葉をのせてみよう」 ゲスト：山寺宏一(声優) ナビゲーター：アサノタケフミ
	4 月 30 日	
	5 月 8 日ー6 月 30 日	
	6 月 3 日	
	6 月 4 日	

●社会的包摂事業の実施

○チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま（協力事業）

本事業は、倉敷・大原美術館の取り組み事例を参考にしながら、人づくり、場づくり、文化発信拠点づくりを基盤にした参加型体験学習イベントです。市民有志が主体となり、震災後における地域社会のあり方や社会的包摂の考えをアートの視点で取り組むことを目指しながら、地域コミュニティの様々な課題を乗り越える術を地域住民と学び、その実践の場として体験型学習イベントを実施してきました。研修に参加した美術館ボランティア（JUNBI サポーター）が主体となり、鑑賞プログラムを運営するなど、美術館活動と連動したプログラムも実施しています。文化芸術のもつ発想や手法をいかした取り組みを通して、様々な属性の人々が共に暮らす地域コミュニティづくりに寄与することを目的としています。チルミュしおがまを通して、未来を担う児童・生徒たちが成長過程の重要な時期に美術館で過ごし、感性や思考を刺激する経験を得られるような場をつくっていききたいと考えています。



年度	開催日	実施内容 ※講師敬称略	
2018	平成 30 年	6月1-3日 キックオフ!チルドレンズ・アート・ミュージアム研修会 10月18日 チルドレンズアートミュージアムしおがま	
	2019	令和元年	6月15日 小池アミイゴのだれでも絵が描けるワークショップ～大人編～ 10月19日 チルドレンズアートミュージアムしおがま
2020		令和2年	7月26日 明日を、こしらえる vol.1 ゲスト：HUNGER (GAGLE) 9月27日 明日を、こしらえる vol.2 ゲスト：次松大助 (THE MICETEETH)
	2021	令和3年	3月6日 おりがみで「鳳凰丸」「龍鳳丸」をつくろう 講師：芦村俊一（折り紙作家） 5月9日 今日を、呵する ゲスト：ササキゲン (KUDANZ) 12月5日 鳳凰丸（ほうおうまる）をつくろう 講師：芦村俊一（折り紙作家）
2022		令和4年	1月13日 塩竈市内児童クラブとの対話型鑑賞（第一小学校、杉の入小学校、玉川小学校） 4月30日 塩竈市内児童クラブとの対話型鑑賞（第一小学校、玉川小学校） 8月27日 塩竈市内児童クラブとの対話型鑑賞（第一小学校） 9月3日 塩竈市内児童クラブとの対話型鑑賞（玉川小学校） 12月11日 鑑賞のじかん ～対話型鑑賞で楽しむ杉村惇作品～ 12月17日 名誉館長ギャラリートーク（玉川小学校児童クラブが参加）
		2023	令和5年

主催：チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま実行委員会

共催：公益財団法人菅野美術館、ビルド・フルーガス 協力：公益財団法人大原美術館

助成：宮城県文化芸術の力による心の復興支援事業（2018-19年実施時）

○“こちよい”の実践プログラム「発散のじかん / 対話のじかん」

令和5年から、生涯発達支援塾 TANE・櫻井育子さんをナビゲーターに、だれもが個性や特性をいかし、“こちよさ”を体験するプログラムを実施しています。

ゲストに中津川浩章さん（美術家・表現活動研究所ラスコー主宰）をお迎えし、「発散のじかん」では、墨をつかって、思い思いに表現を楽しみ、「対話のじかん」では、それぞれが思い描く“こちよさ”について語り合いました。

ナビゲーター：櫻井育子（生涯発達支援塾 TANE 主宰）

ゲスト：中津川浩章（美術家・表現活動研究所ラスコー主宰）

共催：塩竈市教育部生涯学習課 協力：エイブルアートジャパン東北事務局



●中心市街地のにぎわい創出事業

○暮らしの市

衣食住を〈知恵と工夫で暮らしを彩る〉美術館ならではのクラフトマーケットです。うつわや木工品等のでづくり品から古道具、地元商店による食の提供など、日々の暮らしをより豊かで楽しいものにしていくことを提案します。多彩なワークショップなど魅力あるイベントも開催しています。美術館が市民にとって暮らしの延長線上に存在しえるよう、また、普段美術館に親しんでいない客層が足を運ぶ機会になるよう取り組んでいます。

2日間開催する「暮らしの市」では、市内外から2,000人以上の来場客が集まります。美術館事業を契機に交流人口の拡大を図ると共に、本町エリア内の商店と連携を図りながら、来場者における塩竈市内の回遊性を高める取り組んでいきたいと考えています。



一覧 ※順不同

2016年夏：

Bagel & Bread spica / bavard-cadeau / CHAIR BANK / FabLab SENDAI - FLAT / gramrriy / soeru / BOOK WITH CAFE MARY COLIN
Natural born style / tabia / wool.cube.wool! / 木村香葉子 / 骨董・アンティーク ISHINN / コトリコーヒー / 花*花のわか / 太田與八郎商店
ごはんのじかん (bavard-cadeau × お米クリエイター)

2016年秋：

Bagel & Bread spica / entomo&TIMBERCOURT / Epices d' Automne / et craft factory / FabLab SENDAI - FLAT / FERGIECYCLE / im
flower studio riev / harmonia / Lamp of Hope / LIFE WORK DESIGN / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / mt でリメイクボックスづくり
tripinterior / 山の手 / Natural born style. / SENDAI COFFEE STAND / 木村香葉子 / 愛さんさん / アステラス器物家 / 太田與八郎商店
コトリコーヒー / ばた本屋 / 矢萩誉大 / 花*花のわか / みんなのリンギョウ

2017年夏：

1000's BASE / atelier hokaw / AURORA COFFEE / Bagle & Bread spica / Botanical People / et craftfactory / FabLab SENDAI - FLAT
Boulangerie Girafe / CHAIR BANK plus / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / gramrriy / Hanasenka with Arrow / iroppu / 相原酒店
KOUB / TENN. / mt でリメイクボックスづくり / Origami Sendai / Ramuyato / STUDIO どどいち / Sweet Spice Asano / 日和スタイル
Swing Gavrohe / tomatoma ばん / アトリエラフル / 太田與八郎商店 / オフルニルデュボワ / コトリコーヒー / 月日工作舎 / 七草商店 / ばた本屋
みんなのリンギョウ / 山ペーグル / (株) よつばファーム

2017年秋：

1T02 BLDG. / atelier hokaw / book cafe 火星の庭 / Botanical People / cafe & curio snooze / Decoeur / Dreaming-Jr. / Hanasenka
humming / iroppu / kepo bagels / La Maison Rose / laBalance / LAWN / mt でリメイクボックスづくり / my ma mine / ひとつぶ堂
Origami Sendai / midori のアロマ教室 / Pizzeria La Gita / TSUKIMO BAZAAR / アトリエラフル / 海み風 / 太田與八郎商店 / 工房すびか
コトリコーヒー / 手作り工房のりピー / 道具屋 ohyama / 東北大学ジャズ研 / 葉っぱでバッタをつくらう / 日和スタイル / プエンモスト (株)
wool.cube.wool! / (株) よつばファーム

2018年夏：

1T02 BLDG. / book cafe 火星の庭 / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / Botanical People / coeur tranquille / decour / et craft / m&i
FabLab SENDAI - FLAT / Hanasenka / hokaw studio / Jolis Biscuits / La Maison Rose / Lamp of Hope / LAWN / 寒風沢農園 / 花童
mt でリメイクボックスづくり / my ma mine / natural.smile.design / studio hokaw / コトリコーヒー / てんたのお気に入りおもちゃ / カフェ+α
Sweet Spice Asano / カレーと野菜 香希 / キモノビジ / 工房すびか / (株) よつばファーム / 木村香葉子 / Imustan (野田夏実) / 大江憲一
mihoco sato ceramics / S.H.O.K.K.I. / ELEMITA CERAMIC / SANZOKU (根本裕子)

2018年秋：

Bagle & Bread spica / book cafe 火星の庭 / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / Botanical People / CHAIR BANK plus / DIY STUDIO
coeur tranquille / et craft / FabLab SENDAI - FLAT / Hanasenka / humming / Jolis Biscuits / KOUB / すみやのくらし@七ヶ宿の白炭
La Maison Rose / mihoco sato ceramics / my ma mine / Natural born style. / natural.smile.design / nijiro / 工房すびか / ふーりょ
コトリコーヒー / 寒風沢農園 / shimaumafive / String G-Forest / tomatoma ばん / zizo+ ベーカーリー / 1T02 BLDG. / アイ・クルール / iroppu
イケダコーポレーション / おかだやの日常 / 三軒茶屋の明るいパン屋 ミカヅキ堂 / 日和スタイル / びんのおのや / 太田與八郎商店 / 山ペーグル
ACORN / wool.cube.wool! / てんたのお気に入りおもちゃ / LIFE RECORD ARCHITECTS

2019年夏：

1T02 BLDG. / book cafe 火星の庭 / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / Botanical People / CHAIR BANK plus / decour / Jolis Biscuits
et craft / FabLab SENDAI - FLAT / hokaw studio / La Maison Rose / LAWN / m&i / MEGUR with zizi / mt でリメイクボックスづくり
my ma mine / natural.smile.design / Sweet Spice Asano / tetowa / 大江憲一 / おかだやの日常 / カレーと野菜 香希 / 寒風沢農園 / 花童
暮らしを愉しむ ちいさな農園 / クラフト くるみの部屋 / こぎん mameco / コトリコーヒー / しょうえい / 手作り工房のりピー / 夏はやっぱりスイカ!
ばた本屋 / ふーりょ / 堀江遼子 / 和菓子づくり体験~夏の練りまり~ (布田善寛) / ELEMITA CERAMIC / Imustan (野田夏実) / 木村香葉子
mihoco sato ceramics / SANZOKU (根本裕子) / ONE KILN CERAMICS / Eunice Luk

2019 年秋：

1T02BLDG. / Ajouter / book cafe 火星の庭 / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / Botanical People / BOULANGERIE ianaki / キノミノ coeur tranquille / cozuzu 手芸店 / FabLab SENDAI-FLAT / Goma と作ろう! かおクッキーサンド / Hararei / Jolis Biscuits / KOUB / 穀 La Maison Rose / Lamp of Hope / Magenta / MEGUR with zizi / Natural born style. / natural.smile.design / Schomaker / 千陶房 shimaumafive による mt でクリスマスオーナメント&リメイクボックスづくり / wool.cube.wool! / 暮らしオーガナイズ M's Support / 山ベール工房すびか / コトリコーヒー / 三軒茶屋の明るいパン屋 ミカヅキ堂 / パン・菓子工房 oui / 太田與八郎商店 / 木工 kigoto
マルシェバッグ~MADE OF バナーフラッグ~ designed by 交衣室 mege

2020 年秋：

Bagel & Bread spica / Botanical People / FabLab SENDAI - FLAT / iroppu& 木魚 / Jolis Biscuits / KOUB / Magenta / コトリコーヒー 森のはちみつ / ラトリエ テンポ / mt でクリスマスギフトボックス & オーナメントづくり / my ma mine / Natural born style. / Otomo. / キノミノ Schomaker / wool.cube.wool! / 穀 / 市川紙店 / 暮らしオーガナイズ M's Support / 工房すびか
飛びだすビルド! のワークショップ「反射材でキラリとひかるバッグをつくろう (すがわらじゅんいち)」 「てづくりえんぴつ」 「陶芸体験うつわづくり (アトリエ陶の泉)」

2021 年夏：

a good table 'Chariot / Botanical People / Brasserie Tatsuyaa / button / CHAIR BANK plus / FabLab SENDAI - FLAT / ラトリエテンポ gift shop mauve / Harry's Junction / Holo i mua / hori pan ほーりーばん / MEGUR with zizi / meme-2.0.1.8 / 自然卵のクレープ松島店 MOLA MOLA CAFE / my ma mine / Natural born style. / Schomaker / Shimauma five / Sweet Spice Asano / volume1 (ver.) / koko wool.cube.wool! / zizo+ベーカリー / 石巻 まちの本棚 / 移動本屋ベンギン文庫 / 浦霞醸造元株式会社佐浦 / カレーと野菜 香希 / 山ベール韓国鉄板料理プル&コギ / かんぶうざわ雑貨店 / キッチンカフェ 千の桜 / コトリコーヒー / しおがまほいく未来 BASE / 出張フレンチ ranpu / 中長和み処 男山 / 日和ベーカリー / 吉田勝信 / La Maison Rose / KURASHIO / 若手アーティスト支援プログラム Voyage 関連企画

2021 年秋：

a good table 'Chariot / Aimu Crepe / antique la figue / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / Botanical People / Brasserie Tatsuyaa かんぶうざわ雑貨店 / 暮らしと道具の店手しごと舎 / FabLab SENDAI - FLAT / Harry's Junction / hori pan ほーりーばん / itoshigoto / koko KOUB / KURASHIO / カレーと野菜 香希 / La Maison Rose / でんでんむしカンパニー / LAWN / Magenta / 禾食や Kajikiya / 山ベール Origami Sendai / Shimaumafive / SUNNY SITE COFFEE / volume1 (ver.) / zizo+ベーカリー / 移動販売ラーメン あらどっこい / キノミノ コトリコーヒー / パンツクルヒト / 後藤有美 / ELEMITA CERAMIC / Eunice Luk / Imustan (野田夏実) / ONE KILN CERAMICS / 佐藤悠生 SANZOKU (根本裕子) / 佐野美里 / 天然酵母パン オフルニルデュボワ / 浦霞醸造元株式会社佐浦 / 海鮮せんべい塩蔵 / 出張フレンチ ranpu 自然卵のクレープ松島店 / 韓国鉄板料理プル&コギ / きのこ収穫体験・販売 / 塩釜蒲鉾連合商工業協同組合 / マツキッチン / Natural born style. 飛びだすビルド! 「コラージュネクタイをつくろう」 / 宝石・時計 エレガンスアライ / Otomo. / タンヨ玩具店 / 市川紙店 / アトリエサタチ

2022 年夏：

a good table 'Chariot / ARGON BREWING / Botanical People / button / coeur tranquille / FabLab SENDAI - FLAT / Hello Sandwich koko&meme_2.0.1.8 / la figue / La Maison Rose / Schomaker / Shimaumafive / Soup / Sweet Spice Asano / TARO BAKERY / i10 volume1(ver.) / 内海ただこさんがつくった浦戸の地場野菜 / コヤギベーカリー / ジャンヌダルク・フィスエール / たゆや / ハビナチュ / 堀江遼子 でんでんむしカンパニー / ひだまりのギフト展 / 麦小屋 / 山ベール / 間宮商店うみむすび / Brasserie Tatsuyaa / 禾食や Kajikiya / 後藤有美 text / Eunice Luk / Imustan (野田夏実) / 鈴木恵麗子 / SANZOKU (根本裕子) / ラウンドロビン屋台 : 台北

2022 年秋：

a good table 'Chariot / ARGON BREWING / Botanical People / BRING / ELEMITA CERAMIC / Eunice Luk / FabLab SENDAI - FLAT FLORICO / Harry's Junction / UTOPIA / Imustan (野田夏実) / itoshigoto / koko&meme_2.0.1.8 / ラトリエテンポ / La Maison Rose Lucucookie / MILLS / SANZOKU (根本裕子) / Shimaumafive / Soup / TARO BAKERY / Tui / i10 / 禾食や Kajikiya / マツキッチン ありえ青輝鳥 / アトリエ リパティ / 移動本屋ベンギン文庫 / 海の手山の手ネットワーク / おりがみくんの草玩具 / 山ベール / さくら / 土澤木工 いろいろいたこ / キッチンアンバーズ / 後藤有美 / コトリコーヒー 那須アトリエ / 齋藤寛子 / 自然卵のクレープ松島店 / 堀江遼子 / はらいそカリー 出張フレンチ ranpu / 鈴木恵麗子 / 臺灣的茶店 麓 / てんたん人形劇場「お気に入りおもちゃ」 / ひだまりのギフト展 / zizo+ベーカリー / 村崎庵 山葡萄 薬&千の桜 / ラウンドロビン屋台 : 江陵 (韓国)

2023 年夏：

& Green Flash/Bar Flower / a good table 'Chariot / Botanical People / Brasserie Tatsuyaa / CLASSOCO FURNITURE / 山ベール FabLab SENDAI - FLAT / hori pan ほーりーばん / Jazz cafe&bar TOUSA / meme_2.0.1.8 / La Maison Rose / LUPONA / メルヘン畑 Schomake / コトリコーヒー 那須アトリエ / 麦小屋 / TARO BAKERY / おむすび山咲 / 暮らしと道具の店手しごと舎 / itch / マメモギモリノナカ 暮らしのあれこれ (東北芸術工科大学工芸有志) / かんぶうざわ雑貨店 / Leather Lab. hi-hi / LAWN TEXT / Sweet Spice Asano / koko MEGUR / wacca / たべることくらすこと SOW / 移動本屋ベンギン文庫 / カレーと野菜 香希 / カレーとワインの店 NONNkey のきんい / たゆや shimaumafive / ひだまりのギフト展 / SHIOGAMA SUGIMURA JUN MUSEUM OF ART Pop-up Store

2023 年秋：

14e / a good table 'Chariot / BOOK WITH CAFE MARY COLIN / Botanical People / FabLab SENDAI - FLAT / Faveul / おむすび山咲 KOYAGI BAKERY / La Maison Rose / She's / Shimaumafive / SOUP / Tui Leather / volume1(ver.) / zizo+ベーカリー / キノミノ あくつさんち / 在る print studio / 編んだもんだら & とめ*こしえる / 移動本屋ベンギン文庫 / いまこども企画室 / パン工房ゆがふ / 山ベール 禾食や Kajikiya / カレーと野菜 香希 / くさかんむり cafe / 燻製工房おが太郎 / コトリコーヒー 那須アトリエ / 珍品陶芸所 Chin pin (木村良) チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま / 晴空雑貨店 / パン・菓子工房 oui / ひだまりのギフト展 / またね / ユル編みスペースよっしーの桜



○ART or TREAT 仮装で菓子めぐり

当館が立地する本町エリアには、明治から昭和期にわたる歴史的建造物をはじめ、老舗店、カフェ、スイーツ店が立ち並んでいます。名店の味に出会う新たな機会として、秋の恒例行事ハロウィンにあわせ仮装イベントを実施しています。本町通り一体となって市内外からの来訪者に対し、本町エリアの魅力やおもてなしを発信しています。

チンドン屋や若きジャズマンが仮装行列を導きながら、アートの名作を模した造形物で仮装した参加者と共に本町通りの店々をめぐり、菓子を獲得しながら町歩きを楽しみます。

本町エリアにある商店や団体、美術館が協働することにより、さらに塩竈の文化的魅力を発信できると考えます。本町通りまちづくり研究会及び本町町内会を窓口にして商店街とのコミュニケーションを強化し、新たな世代を組み込みながら、本町エリアにおける人的ネットワークの強化に役割を果たしていきます。

美術館活動を通し、本町エリアにおける既存の文化的資源を活用することで持続可能な取り組みと関係性づくりを行い、新たな視点でのエリア活性化を図りたいと考えています。



コスチュームデザイン：櫻井園子 造形物制作：川角由
主催：ビルド・フルーガス 共催：本町通りまちづくり研究会 塩竈市杉村悖美術館 助成：塩竈市協働まちづくり提案事業

○フライデーナイトミュージアム

市民団体（NPO みなとしほがま等）や観光交流課、商工港湾課、観光物産協会、塩釜商工会議所等と連携し、「しおがまさま 神々の花灯り」「しおがまさま 神々の月灯り」など市内のイベントにあわせて事業展開するなど、地域行事への参加を積極的に行いました。また来館者に対する地域の観光資源等に関する資料や情報の提供を通年にわたり積極的に行いました。

本町界隈でイベントが開催される際、営業時間の変更や和菓子作りなどのイベントを実施することで、市民や観光客の美術館への回遊性を創出。観光スポットとしての美術館を浸透させることを目指しています。

「しおがまさま 神々の花灯り／月灯り（年2回開催）」では、Voyage 出展作家や JUNBI サポーターによる塩竈を題材とした作品をもとに制作した提灯をライトアップイベントにて展示し、会場に彩りをそえています。



連携：塩竈市青年四団体連絡協議会（しおがまさま 神々の月灯り実行委員会）

●市内連携プロジェクトの実施

○「塩竈フォトフェスティバル」(隔年開催)※特別協力事業

「塩竈フォトフェスティバル」は、塩竈出身で「しおがま未来大使」でもある写真家・平間至氏を中心に、第一線で活躍する写真関係者を招き、さまざまな切り口から写真に親しむイベントです。アーティスティック・ディレクターに国内外で活動する菊田樹子氏をお迎えし、2008年当時はまだ普及していなかったポートフォリオレビューの実施、歴史的建造物をはじめ市内各所で、多様かつ質の高い写真の展示を開催しています。東日本大震災以降は「写真」の持つ本質や役割について再考し、写真芸術のあり方や写真文化について考え、全国へ発信していく場を目指しています。

主要展示会場のひとつとして展覧会を開催するとともに、メインイベントであるポートフォリオレビューを大講堂にて開催しています。平間至氏と共に、塩竈における芸術活動の推進や写真文化の振興に取り組んでいます。

主催：塩竈フォトフェスティバル実行委員会

○第9回全国醤油サミット in 塩竈「醤油の澱で大きな木を描こう」(協力事業)

講師に墨画家・一関恵美氏を講師にお招きし、醤油づくりの過程で不要となる醤油のオリ(澱)と水による濃淡やにじみをつかって、大きな紙にみんなで大木を描く絵画体験です。初めての素材(画材)をつかうことで、絵画表現に対して苦手意識のある方でも素材(画材)への関心を高めながら楽しく体験することができます。伸びやかに生い茂る大木をイメージしながら、繊細な筆遣いからダイナミックな表現まで、墨画のように多様な表現方法を楽しみました。

※オリ(澱)とは醤油の成分や不溶性蛋白質、アミノ酸、不純物などの沈殿物のこと。
※本企画は、2022年度・第9回全国醤油サミットにあわせて実施しました。

主催：ビルド・フルーガス 共催：第9回全国醤油サミット in 塩竈実行委員会 助成：みやぎ県民文化創造の祭典 芸術銀河
協力：太田興八郎商店 片上醤油 七福醸造株式会社 南蔵商店株式会社 ヤマログ醤油株式会社 特定非営利活動法人ワーカーズコープ
塩竈地域福祉事業所社とうみ
企画協力：塩竈市杉村惇美術館



●中庭植栽プログラムの実施

○シンボルツリー「柘榴の木」植樹

当館の中庭をより魅力的な活動の場にするために、杉村惇画伯が生涯にわたって描いた柘榴をシンボルツリーとして当館中庭に植樹。また植樹した柘榴から実を収穫し、(こども探偵事務所など)当館の活動において活用しています。

○たねをまこう

塩竈・浦戸諸島では、大正時代に純粋な白菜の種の採取に成功し、「松島白菜」と名付けられた白菜の種は全国に出荷されました。浦戸諸島は白菜の種のふるさとと言われています。「たね」をキーワードに、地域のみなさんと一緒に中庭で植栽活動をする「たねをまこう」では、イラストレーターで農家の齋藤寛子氏をナビゲーターにお迎えし、年間を通して、種をまいては種や野菜を収穫しています。併せて、たねの貸し出し(シードライブラリー)も実施しています。

これまで、ベビーリーフなどすぐに収穫できる野菜や、人参、枝豆、へちま、菊芋、コモンマローなどの種をまき、収穫した植物を活用したワークショップなどを実施してきました。



④文化発信拠点形成事業

●歴史的建造物を活用した歴史・文化ゾーンの形成

○歴史的建造物探訪ツアー及び講習会の開催

塩竈市の歴史や産業を物語る象徴的な建物群（江戸建築・勝画楼、明治建築・旧えびや旅館、大正建築・旧亀井邸、昭和建築・本施設などの有形文化財）が残る門前町エリアを塩竈の「歴史・芸術文化ゾーン」としてとらえ、多様な価値の再評価と理解・関心をひろめるため、NPO みなとしほがまなどとの連携のもと、専門家による市民向けの分かりやすい解説ツアーなどを行いました。

日ごろから来館者に対して建築の歩みや特徴、価値等について丹念なガイドに努めていくほか、サロンの雰囲気を生かした企画や、NPO みなとしほがま等との連携による歴史的建造物探訪ツアーなどを実施しました。

建造物の文化財としての価値は、歴史的・学術的価値のみにとどまらず、街の中の風景遺産であったり、その場所や空間と関わった人々の記憶という形で刻まれる、いわば市民的価値の側面に目を向ける必要があります。

そのような観点から、街と共に歩み、街と人々の暮らしを見守ってきた建築にまつわる思い出やエピソードを収集したり、市民同士が語り合い伝え合う機会を設ける等、「市民と共にある建築」への親近感を醸成する取り組みを検討しています。また、旧亀井邸、旧えびや旅館と本美術館の共通パンフレットを作成し、市内の回遊性を高めるように努めています。



年度		開催日	実施内容 ※講師敬称略
2016	平成 27 年	3 月 13 日	塩竈学まちづくり学習事業「歴史的建造物探訪」 ～旧亀井邸・旧えびや旅館・塩竈市杉村惇美術館を巡る～ 講師：高橋恒夫（東北工業大学教授） 主催：塩竈市教育委員会
2017	平成 28 年	3 月 9 日	公開参加型ディスカッション「リノベーションでつなげる・ひろげる まちの魅力と可能性」 ゲストファシリテーター：馬場正尊（建築家）
2018	平成 29 年	3 月 24 日	「代官所から公民館までの歴史」 講師：庄子洋子（郷土史家）
2023	令和 4 年	11 月 3 日	ZANKÔ による勝画楼のリサーチ & パフォーマンス

○アーティストと JUNBI サポーターによる歴史的建造物リサーチプログラム

しょうがろう

「勝画楼の記憶から」

塩竈は、国府多賀城の外港として、また、藩政期においても仙台城下の外港として栄えながら発展してきました。陸奥国一宮として伊達家から庇護を受けながら、歴代仙台藩主からも崇敬された鹽竈神社は、この千賀ノ浦（現・塩釜港）を眺望できる一森山に位置し、勝画楼はその境内の東側にひっそりと佇んでいます。勝画楼は、仙台藩の歴代藩主が鹽竈神社を参拝する際に、着替えや休憩の場所（御休所）として使用された建物であり、鹽竈神社別当寺であった法蓮寺の客殿に、18 世紀に書院を建て増して現在の形になったと考えられています。千賀ノ浦を望む景勝地に建てられていることから、仙台藩 5 代藩主伊達吉村が、ここからの眺望を「画に勝る」すなわち「勝画楼」として扁額を揮毫したことが名前の由来とされます。

2021-2022 年度には、若手アーティスト支援プログラム Voyage の過去出展作家 2 名ならびに美術館ボランティア・JUNBI サポーターと協働し、勝画楼のリサーチを実施しました。プロジェクトメンバーたちは、勝画楼に関わりのある方々への聞き取り調査を通じ、この場所が経験してきたその長い時間へと想いを馳せ、陶芸、絵画、文章、サウンドレコーディングなどの手法による表現を試みました。それらの成果物もまた、塩竈市内の歴史的建造物等に展示し、展示会場を巡ることによって、新たな視点から塩竈の豊かな文化を体験する機会となりました。2023 年度には、伊達綱村公が鹽竈神社の建て替えを祝ってつくられた「塩釜甚句」と「ハットセ踊り」を読み解き、この 2 つの芸能を体験しながら、300 年前の塩竈の情景へと想いを馳せました。



年度	開催日	実施内容 ※講師敬称略
2021	令和2年 3月13日 -31日	展示/旧亀井邸 氏家昂大(陶芸家)「塩竈産原土勝画楼徳利写し」他 田中望(画家)「きつねの燈火-勝画楼にまつわる記憶や想いから物語りを描く-」 展示/壱番館一階北側窓展示 JUNBI サポーター/デロスアンジェルス サット(制作)、坂爪奈央子(翻訳) 「space:reimagined/新たに想像される空間」 3月20日 勝画楼見学会&プロジェクトメンバーによる勝画楼調査報告会
2023	令和4年 3月18日	歴史ある塩釜甚句(ハットセ踊り)をおどろう! 講師:赤間桃正(歌/塩釜甚句保存会)、佐々木和恵(踊/塩竈市地域婦人団体連絡協議会会長)

協力: 志波彦神社・鹽竈神社 塩竈市教育委員会 塩釜甚句保存会 塩竈市地域婦人団体連絡協議会 NPO みなとしほがま
チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま実行委員会

○ランドマーク形成事業

主催事業や貸館事業を通して開催される音楽コンサート、歌声喫茶、ダンスパーティー、デッサン会、お祝い会などのイベントを通し、大講堂の利用用途の拡大を図りました。そのような観点から、まちと共にあゆみ、まちと人々の暮らしを見守ってきた建築にまつわる思い出やエピソードを収集したり、市民同士が語り合い伝え合う機会を設けるなど、「市民と共にある建築」への親近感を醸成する取り組みを検討しています。



○ウォークインプログラム

「乾漆ブローチづくり体験 ～塩竈の四季編～」

旅行ガイドブックや全国誌等の多数メディアへの情報掲載やSNSによる情報発信により全国各地からの来場者も増加しています。当館では、地域文化に触れ、参加者自らの手で観光の思い出をつくる、予約不要の体験型ワークショップを提供しています。国内外からの観光客向けに、短時間で気軽に参加できるワークショップを提供することで、観光スポットとしての機能も強化していきます。

共催: FabLab SENDAI - FLAT

○喫茶事業「塩竈本町談話室」

昭和時代に公民館本町分室の談話室だった場所に喫茶室を設け、美術鑑賞の余韻を楽しんだり、交流を深めたり、気軽にくつろげる場の提供を行っています。店内では、淹れたての珈琲や焼き菓子をはじめ、移動本屋ペンギン文庫により毎月選書された書籍を買い求めることができます。当館の「もうひとつの目的地」として、展示鑑賞のみならず、美術館内で過ごす憩いの場となっています。

協力: 移動本屋ペンギン文庫 Sion

○大学・他施設・専門機関との連携

普及・啓発事業に関しては、美術館単独での多岐にわたる芸術分野の取り組みには限界があることから、ふれあいエスプ塩竈や市民図書館、公民館などの社会教育施設はもとより、2016年度に取り組んでいる東北歴史博物館との本格的な協働事業や、倉敷・大原美術館との連携事業のように、他施設との接点を求め、また公・民を問わず多様な文化施設・機関・団体等と連携していくことが不可欠と考えています。東北芸術工科大学、東北生活文化大学、宮城大学、東北工業大学等の大学・高等教育機関と連携し、地域デザインにかかるプロデュースやアートマネジメントなどへの応用を志向する実践・研究の場として、アーティストと協働する現場への参加促進や短期の体験実習生などの積極的な受け入れなど体制と環境を整えています。

塩竈市（生涯学習課、政策課、観光交流課、同長寿社会課、地域包括支援センターほか）をはじめ多数の関係機関・団体と、主に広報などの面で通年・随時に相互協力を図っています。

地域の社会教育・芸術文化関連施設、団体との連携により、より質の高い美術館事業の展開を行いました。文化芸術のもつ社会的な力を活かし、より豊かな地域社会や市民生活に貢献する企画を展開。また、専門機関と連携し、質の高い美術館事業の展開を図りました。



年度	タイトル	連携
2016	平成 28 年 平成 28 年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業 12月25日「描いてまなぶ 洞窟壁画 体験ワークショップ」 「今の私たちが描く洞窟壁画」 共同制作：浅野友理子（画家） 佐野美里（彫刻家） 永澤秋沙（画家）	東北歴史博物館
2018	平成 30 年 塩竈オープンディスカッション「つくるはじめるミュージアム」	ライブミュージアムネットワーク 実行委員会事務局

※50音順 / 重複している場合、省略

杉村惇作品の保存・展示・調査研究

大衡村ふるさと美術館／カメイ美術館／公益財団法人仙台市市民文化事業団（せんだいメディアテーク）
塩竈市芸術文化協会／塩竈市美術展実行委員会／仙台市文化観光局文化振興課／宮城県美術館

市民協働

エイブルアートジャパン東北事務局
公益財団法人大原芸術財団／公益財団法人菅野美術館
塩竈市芸術文化協会／塩釜国際交流協会
塩竈市地域包括支援センター／生涯発達支援塾 TANE
つながる湾プロジェクト運営委員会
NPO 法人チルドレンズ・アート・ミュージアムしおがま
NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台
労働者協働協同組合ワーカーズコープセンター事業団

教育普及

東北芸術工科大学／東北工業大学／東北生活文化大学
宮城学院女子大学／宮城教育大学／宮城県塩釜高等学校
宮城県宮城野高等学校／宮城大学
FabLab SENDAI -FLAT

文化発信拠点形成

塩竈市青年四団体連絡協議会
塩竈フォトフェスティバル実行委員会／NPO みなとしほがま



おわりに

開館以来 10 年にわたる運営経験を活かしつつ、市民・利用者から広く親しまれ信頼される施設をめざし、運営してまいりました。引き続き、施設の管理運営と事業推進に努めていきます。併せて、安全・安心を最重要としつつ効率的な施設管理とサービス向上に努めてまいります。当館の主要事業として取り組んできた「若手アーティスト支援プログラム Voyage」では、地元出身の優れたアーティストが育ち、地域から国内外で活躍する新たな才能が輩出される基盤が形成されています。将来的に地域の芸術・文化をリードする人材が育ち、塩竈市の誇りとしての役割も果たすことを期待しています。また、アーティストによる地域性を反映した表現は、市民が地域文化や風土への理解と愛着を深めるきっかけとなっています。ほかにも、地域住民や市外からの来場者で賑わう「暮らしの市」など、参加性の高いプログラムの展開から美術にふれる多様な機会の創出を図りつつ、幅広く美術館に親しみ、ひいては街と美術館の接点がより豊かに広がり深まることを引き続き目指していきます。

また、他施設との接点については、公・民を問わず多様な文化施設・機関・団体等と連携していきます。東北芸術工科大学、東北生活文化大学、宮城大学、東北工業大学等の大学・高等教育機関や専門機関と連携し、質の高い美術館事業の展開を図ってまいります。地域デザインにかかるアートマネジメントなどを志向する実践・研究の場として、アーティストと協働する現場への参加促進にも努めていきます。

今後は、障がいの有無に関わらず誰もが一緒に楽しめるインクルーシブなプログラムをさらに増やし、文化芸術を通じて共生の理念を地域社会に根付かせる一助としていきます。文化芸術の場を共生のモデルとして提供することで、すべての人が互いに尊重し合う共生社会の実現に寄与したいと考えています。

なお当館の指定管理運営に当たっている仙台湾燻蒸株式会社は、博物館・美術館等の保存環境調査など文化財保存対策の業務を行うとともに、文化事業部では、美術館の管理運営の他に、塩竈におけるアートギャラリーの運営に加え、2023 年度よりアーティストのシェアアトリエやマイクロレジデンス事業を行っています。シェアアトリエでは制作環境を提供、マイクロレジデンスでは国内外のアーティストの短期滞在を支援することで、アーティストの創作活動を包括的に支援しています。本市を拠点に活動する新たな関係人口の増加を図るとともに、ネットワーク豊かなアートコミュニティの基盤を形成しています。今後も独自の文化が生まれ育つ文化的土壌の醸成を図ってまいります。

これからの 5 年、10 年では、施設活用の多角化・高度化に努め、塩竈における新たな観光資源のひとつとしての位置づけのもと、これまで以上に、街のにぎわい創出や交流人口の増加に資する役割を果たし、文化観光の拠点として魅力を発揮するように努めてまいります。

2024 年 11 月 23 日

編集・発行
塩竈市杉村惇美術館
985-0052 宮城県塩竈市本町 8-1
TEL 022-362-2555
FAX 022-794-8873
sugimurajun-museum@shiomoto.jp
<http://sugimurajun.shiomoto.jp/>

禁無断掲載・複製

